

令和２年度・運動部活動改革プラン

＜地域との協働・融合に関する調査・実践研究＞

「部活動へのアスレティックトレーナー等の派遣と
チャレンジクラブ制度の導入の効果と課題の把握」

報告書

令和３年３月

NPO法人浦和スポーツクラブ

目 次

1. 事業概要と経緯	1
1. 1 事業概要	1
1. 2 事業の経緯	2
2. 専門家派遣について	5
2. 1 オンライン指導	5
2. 2 専門家派遣の成果と課題	12
3. チャレンジクラブ	15
3. 1 実施状況	15
3. 2 チャレンジクラブの成果と課題	16
4. アンケート調査結果	18
4. 1 生徒	18
4. 2 保護者	24
4. 3 教員	29
5. 部活動改革にむけて	34
5. 1 課題の再整理	34
5. 2 今後の取組み	40
（参考1）「北浦和東部地域スポーツクラブとまちづくり」	42
（参考2）導入実現にむけた方策の検討方法（案）（昨年度報告書から抜粋）	43
（参考3）チャレンジクラブと専門家派遣を取り入れた部活動改革の姿（案）	46
（参考4）保護者アンケート自由記述	47

関係者一覧

1. 事業概要と経緯

1. 1 事業概要

(1) 事業名

2020 年度「運動部活動改革プラン」地域との協働・融合に関する調査・実践研究
通称：本中プロジェクト

(2) 事業実施体制

①受託者

NPO 法人浦和スポーツクラブ

②協働実施者

さいたま市立本太中学校

早稲田大学 スポーツ科学学術院 アスレティックトレーニング研究室

plus N (代表 公認スポーツ栄養士 小嶋理恵子)

特定非営利活動法人 R e M i n d (代表 理学療法士 河合麻美)

(3) 事業期間

2020 年 10 月 20 日～2021 年 3 月 10 日

(4) 事業目的

中学生の運動部活動が抱える課題の解決を目指し、中学校と地域スポーツクラブ等の地域のスポーツ関係者が連携して運動部の活動形態の変革にむけた課題抽出と対策検討を、試行事業をとおして進めることを目的とします。

(5) 実施の構成項目

① アスレティックトレーナー等の専門家の派遣

② チャレンジクラブの実施

③ アンケート調査の実施

④ 関係者会議等の実施

1) プロジェクト会議

2) 地域スポーツ指導者等会議

3) ミニシンポジウム (意見交換会)

1. 2 事業の経緯

本事業は、2017 年度に、早稲田大学広瀬教授の発案を受け、浦和スポーツクラブ（以下、浦スポ）とさいたま市立本太中学校（以下、本中）が連携して「中学生のスポーツ環境の向上」への取組んだことに始まります。

この背景には、浦スポが、2005 年に「北浦和東部地域スポーツクラブとまちづくり」（参考 1）を地域で提案したこと、2007 年から開催する「星空スポーツ広場」（毎週土・日曜の夜に、浦和高校の体育館とグラウンドで自由参加型のサッカー・バドミントン・卓球を開催）に、本中からも多くの部活動生徒が参加していたこと、この中で新中 1 の初心者向けのバドミントン教室を開催、さらには、2012 年頃から本太中学校の余裕教室や武道館を使用して平日の授業時間中にシニア健康運動教室を週 2 回開催するなど、本中と浦スポが多様な形で緩い連携を図っていたことがあります。

（1）課題把握 — 2017 年度

2017 年度に、最初に本太中学校・広瀬教授・浦和スポーツクラブで話し合いを持ち、現在の部活動の現状と課題の把握に努めました。

多様な現状・課題が出されましたが、以下の 4 つの点について、着目することになりました。

○生徒の怪我等の防止

中学校の運動部活動の実施的な活動期間は 2 年間程度であるが、怪我や痛みを抱え復帰を焦り、症状を悪化させたり、十分なパフォーマンスを取り戻せずに悩んでいた、復帰をあきらめざるを得ない生徒も少なくない。

○生涯スポーツにつながる知識と体づくり

生活習慣病の予防などの観点からも若年層のスポーツ実施率の低下が問題視されているが、適度な運動やスポーツに親しむ習慣は、子どもの頃のスポーツ体験や健康・体力づくりに関する正しい知識が影響しているものと考えられる。中学・高校などでこのようなスポーツ体験や、知識を習得する機会をつくる必要がある。

○教職員の負担軽減

部活動顧問の教職員の勤務環境の改善は喫緊の課題となっている。

特に、放課後の時間帯における部活動の指導の後に、授業の教材づくりなど校務を行うことでの超過勤務が大きな負担になっていることなどが指摘されている。

○指導実績のある指導者の確保

担当をする部活動の種目経験の無い教職員も少なくない。教職員本人にとってもストレスが増えると同時に、生徒や保護者は技術的指導を求めてストレスを持つ原因となっていると考える。

(2)「もっちゅうアップ」― 2018 年度

2017 年度の話合いを受け、短時間で怪我の防止や体幹強化などに効果のあるウォーミングアッププログラム（「もっちゅうアップ」と命名）を、広瀬教授が作成し、各部で取り組めるように、希望する運動部を対象にリーダー研修を開催しました。

もっちゅうアップは、次のような特徴を有しています。

- “もっちゅうアップ” は、全ての運動部活動で、短時間に効果的なウォーミングアップができるように、考えられた運動です。
- 単なる準備運動ではなく、競技力を高めるために必要ないろいろなトレーニングになっています。
- 技術練習や戦術練習も大切ですが、なによりも、自分の体を思う通りに正しく動かせるようにすることができなければ、これらを活かすこともできません。
- 短い期間しかない中学校の部活動で、筋肉や関節系の怪我は大敵ですが、“もっちゅうアップ” は、肉離れや靭帯の損傷などの予防にも高い効果を発揮するプログラムです。
- 少し走って体を温めるだけではなく、プレイをするのに必要な体幹やバランス能力を総合的に高めるために必要なトレーニングを行うのが、現在のウォーミングアップの考え方です。
- 毎回の練習時に行うことで、怪我の予防と競技力の向上につながります。

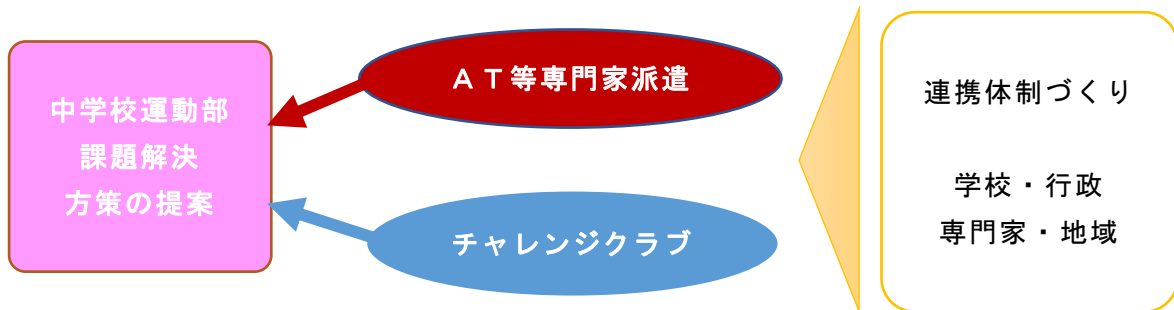
また、ユーチューブでいつでも閲覧できるようにするとともに、全校生徒に解説パンフレットを配布しました。



（３）2019 年度～2020 年度 本事業の受託

2019 年に、スポーツ庁「運動部活動改革プラン」に採択され、以下の事業を展開した。

2020 年度も、同事業に応募し、2019 年度事業の継続と、部活動の地域移行についても視野にいれながら調査・検討を進めてきました。



①AT 等専門家派遣

週に 1 ～ 2 回の頻度で、アスレティックトレーナー（A T）、理学療法士（P T）、スポーツ栄養士などの専門家を運動部に順次派遣し、生徒の相談、指導を行いました。

②チャレンジクラブ

学校管理外の時間帯（下校時間以後）における学外指導者によるクラブ活動を試行しました。

③連携体制づくり

1) 会議の開催

本事業の実施に際し、以下の 2 種の会議を設置し開催してきました。

・プロジェクト会議

学校（校長・教頭・体育主任・部活動顧問等）と専門家とクラブ

・地域関係者会議

チャレンジクラブ指導者、少年団。スポーツ振興委員、クラブ等

2) アンケート調査

生徒、保護者、教員にアンケート調査を実施しました。

3) 意見交換会（ミニシンポジウムの開催）

プロジェクト会議および地域関係者会議のメンバーに、保護者（P T A 役員）を加えて意見交換会を開催しました（当初、シンポジウムとして多くの方の参加を募る予定でしたが、緊急事態宣言下にあたり、人数を最小限にしぼるとともに、一部オンライン開催としました）。

2. 専門家派遣について

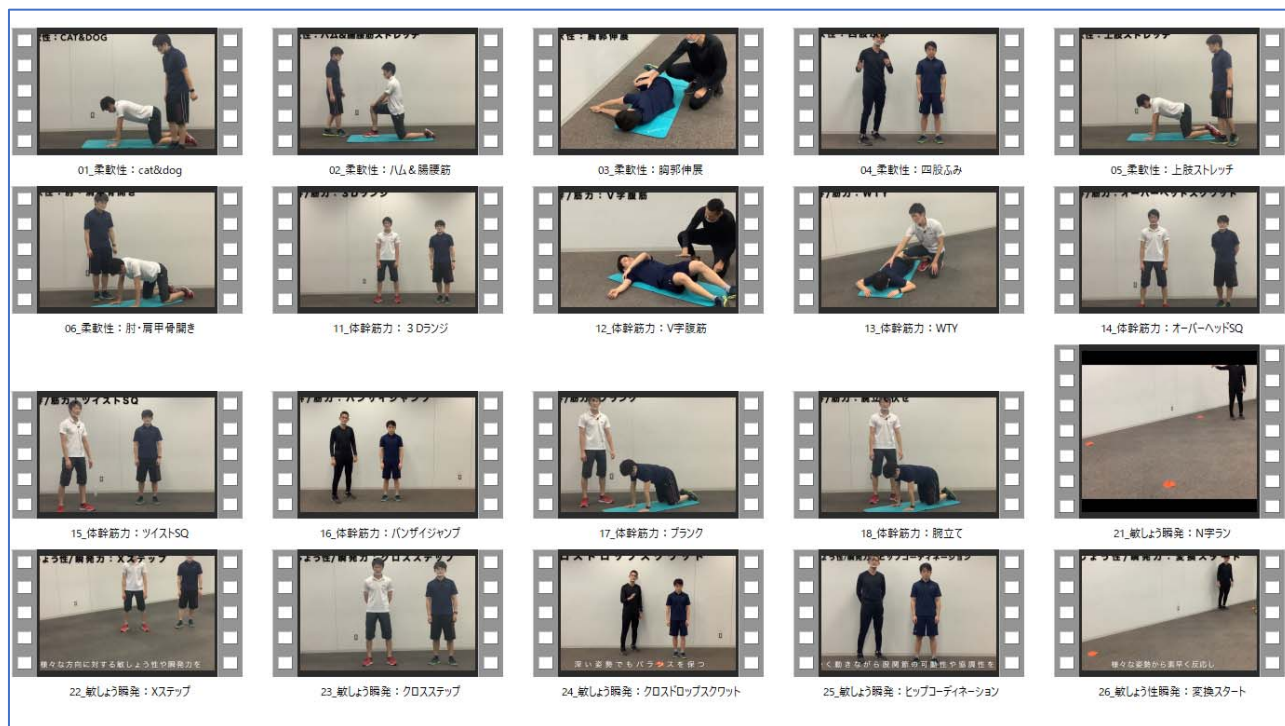
2. 1 オンライン指導

部活動の活動自粛期間が拡大したことから、オンライン指導を行うための動画を作成しました。

中学校のホームページ（サーバー）には容量およびインターネットへの接続に制限がかかるため、浦和スポーツクラブのユーチューブチャンネルに動画をアップし、クラブのホームページから誘導する方法をとりました。

（1）アスレティックトレーナー／トレーニングプログラム

「体幹／筋力」・「敏しょう性／瞬発力」「柔軟性」の3つの視点から、チャレンジクラブを行っている6種目ごとに、種目の特性にあわせた効果的なトレーニングメニュー（全部で20種類のメニュー）を作成しました。



スポーツ別・体力別 自宅でできる運動プログラム

早稲田大学 広瀬統一/古庄敦也/小谷亮輔

2021年2月12日現在のメニュー

1. [サッカー](#)
2. [バスケットボール](#)
3. [バドミントン](#)
4. [テニス](#)
5. [バレーボール](#)
6. [野球](#)

1. [サッカー](#)のトレーニングメニュー

*まとめ動画は「サッカー」をクリック、トレーニング別の動画はそれぞれのトレーニング名をクリックしてください！

体幹/筋力	敏しょう性/瞬発力	柔軟性
V字腹筋 	N字ラン 	四股ふみ 
腕立て伏せ 	Xロング ステップ 	ハム&腸腰筋 ストレッチ 
3Dランジ 	-	cat&dog 

下半身だけでなく**体幹の強さ**もサッカーには必要です。腹筋や腕立てなど様々なメニューに取り組みましょう！



2. バスケットボールのトレーニングメニュー



バスケットボールにはジャンプや切り返
しなどの瞬発力が求められます。
積極的に強化しましょう！



体幹/筋力	敏しょう性/瞬発力	柔軟性
<u>V字腹筋</u>	 <u>ヒップコーディネーション</u>	 <u>四股ふみ</u>
<u>プランク</u>	 <u>Xワンステップ</u>	 <u>ハム&腸腰筋ストレッチ</u>
<u>パンザイジャンプ</u>	 -	 <u>胸郭伸展</u>

* まとめ動画は「バスケットボール」をクリック、トレーニング別の動画はそれぞれのトレーニング名をクリックしてください！

3. バドミントンのトレーニングメニュー

* まとめ動画は「バドミントン」をクリック、トレーニング別の動画はそれぞれのトレーニング名をクリックしてください！

体幹/筋力	敏しょう性/瞬発力	柔軟性
<u>WTY</u>	 <u>ヒップコーディネーション</u>	 <u>cat&dog</u>
<u>プランク</u>	 <u>Xワンステップ</u>	 <u>ハム&腸腰筋ストレッチ</u>
<u>オーバーヘッドスクワット</u>	 -	 <u>胸郭伸展</u>



様々な方向への瞬発力や肩甲骨周りの柔軟性など、バドミントンに必要な全身のメニューに取り組みましょう！

4. テニスのトレーニングメニュー

テニスに必要な横方向へ切り返す敏しょう性や上半身の柔軟性を強化するメニューを取り入れたので実践しましょう！



体幹/筋力	敏しょう性/瞬発力	柔軟性
<u>V字腹筋</u> 	<u>クロスステップ</u> 	<u>cat&dog</u>
<u>WTY</u> 	<u>Xロングステップ</u> 	<u>胸郭伸展</u>
<u>ツイストスクワット</u> 	-	<u>上肢ストレッチ</u>

* まとめ動画は「テニス」をクリック、トレーニング別の動画はそれぞれのトレーニング名をクリックしてください！

5. バレーボールのトレーニングメニュー

* まとめ動画は「バレーボール」をクリック、トレーニング別の動画はそれぞれのトレーニング名をクリックしてください！

体幹/筋力	敏しょう性/瞬発力	柔軟性
<u>プランク</u> 	<u>変法スタート</u> 	<u>cat&dog</u>
<u>腕立て伏せ</u> 	<u>Xワンステップ</u> 	<u>ハム&腸腰筋ストレッチ</u>
<u>パンザイジャンプ</u> 	-	<u>肘・肩甲骨開き</u>



バレーボールで求められる力強いジャンプ力や怪我予防に大切な柔軟性を身につけましょう！

6. 野球のトレーニングメニュー

素早く反応する瞬発力や上半身の高い柔軟性

は野球選手にとって重要です。メニューの目的を理解してそれぞれの体力を強化しましょう！



体幹/筋力	敏しょう性/瞬発力	柔軟性
3Dランジ 	クロスドロップスクワット 	cat&dog 
WTY 	Xロングステップ 	肘・肩甲骨開き 
ツイストスクワット 	-	上肢ストレッチ 

* まとめ動画は「野球」をクリック、トレーニング別の動画はそれぞれのトレーニング名をクリックしてください！

(2) スポーツ栄養士／食生活や体調コントロール

スポーツ栄養士は、部活動の自粛中に体調を崩さない体重管理と食事の摂り方や、免疫力を高める栄養摂取や生活習慣についてオンライン動画を作成しました。

本太中の生徒の皆さん

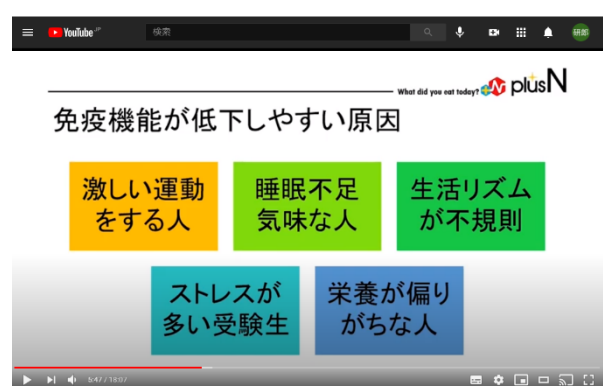
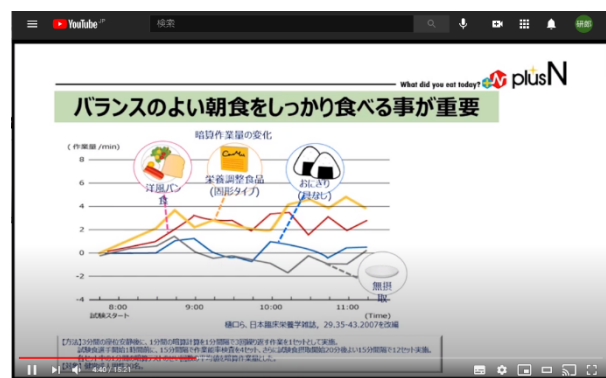
自粛中こそ！ しっかりと食事・栄養管理



栄養セミナー動画一覧

What did you eat today? plusN

栄養セミナータイトル	QRコード
<u>自粛中だからこそ！ しっかり体重管理／体調管理</u>	
<u>「部活がない時間」 みんなはどう乗り越える？</u>	
<u>感染症対策としての食事</u>	



2. 2 専門家派遣の成果と課題

コロナ禍による部活動休止期間が長く、派遣回数が極めて少なくなってしまったことから、今年度事業の効果は把握できないものと考えました。

そこで、「もっちゅうアップ」を取り入れた 2018 年度から 2 年が経過したことで、どのような効果があったかを教員へのヒアリングから整理しました。

【専門家派遣の効果と考えられること】

- 体育祭における怪我が明らかに減少した
- 部活動の中でも怪我が減少しているようだ
- 部活動の中でも、自身のトレーニング・練習方法について高い関心をもって取り組む生徒が増えた
- 種目ごとに必要な(効果的な)トレーニングに取り組めるようになった(顧問に専門的な知識がない中で大変助かる)

一方、専門家派遣の課題については、以下のようなことがあげられました。

【専門家派遣の課題と考えられること】

- (特に冬季は) 平日の練習時間が限られた中で、専門家の指導を受ける時間がとりづらい
- それぞれの部活の練習のプログラムと、専門家のスケジュール調整に手間がかかる
- 継続していくための財源の確保

以下に昨年度事業で整理した結果もあわせて、専門家派遣に関する成果と課題を抽出して示します。

(1) 生徒にとっての成果と課題

成果	課題
①怪我の減少 - 怪我や痛みを訴える生徒が減った。 - 疲労軽減や怪我防止、体の使い方改善につながった。 ②スポーツ科学への意識の向上 - 体のつくりや筋力のことなどについて自分たちで考えるようになった。 - 自分の弱点（例えば柔軟性に欠けるなど）を整理して、どういう練習をすればよいのかを、専門家に聞いて取り組むようになった ③食生活の改善 - 講習を受けてから、朝食などの摂り方が変わった。 ④練習への意識の変化 - 普段、気が付かない体の使い方や、トレーニング方法を知ることができた。 - 自分達で練習を考えるようになった。 - いろいろな視点から考えることが大切なことが学べた。 - ウォーミングアップやストレッチを大事にするようになった - 練習への取組み姿勢が変わった ⑤競技力の向上 - 技術を支える基礎の部分への意識が高まり、競技や練習の質が向上した。 ⑥数値、指標による関心の向上 - 体組成などの測定結果は、高い関心を示した（食生活やトレーニングの改善など行動変容に効果的であると思われた）。	①期間の短さ・継続の必要性 - 生徒によって理解に個人差があり、受け身の生徒も少なくない - 多くは気づきの段階。知ってもらった段階 - 理解して自分から取り組めるようになるには、もう少しかかると思う。 - 継続が課題となる。 ②基本的知識・情報の不足 - 体組成や筋力などを測定しても、それがどういう意味を持つかの情報（知識）がない。せめて平均値に対してどういう値かはしっていてほしい。 - 年間発育量の考え方などを認識させた方が良い

(2) 教職員にとっての成果と課題

成果	課題
①視野の広がり ・ 広い視野で取り組めるようになった。 ・ 技術力だけでなく、新しい視点からスポーツと向かい合うことを考えるきっかけとなった。 ②負担の軽減 ・ 顧問の教員の時間外勤務の軽減につながる（その間、おまかせできるので）。 ・ 教員だけではサポートできない食事や筋力の面などを教えてもらえる。 ③指導力の向上 ・ 種目特有の動きにあったトレーニングを知ることができた。 ・ 知識が増えることで指導力向上につながる。	①日程調整・個人への負担集中 ・ 部活の日程、学校行事などと専門家の日程調整に手間がかかる ・ 窓口となる職員に負担が集中しかねない ②教職員（顧問）の認識不足・事前情報不足 ・ それぞれの専門家がどのようなことをされるのか（できるのか）、経験がない教員には理解（想像）しづらかった。 ③活動時間の確保 ・ 特に平日は、部活動の時間が短時間に限られている中で、新しいことを取り入れることが大変だった。 ・ 教えてもらったことを、他の日に反復する時間がとれない。 ④活動を預けることの不安 ・ 生徒が迷惑をかけるのではないかと心配になった。 ⑤既往の練習との整合 ・ ふだんの練習との共通化が難しい。 ・ 顧問や生徒のニーズと合致しないこともある。 ・ 中学生への必要性が理解されていないこともある。 ・ 年間で計画が組むことができない。

(3) 総合型地域スポーツクラブ（および地域）にとっての成果と課題

成果	課題
①中学生の現状の把握 ・ 通常の中学生の体の状態を、これまでよりもさらに知ることができた。 ②中学校との連携向上・意識の共有 ・ 中学校の教職員と連携して、情報の共有、中学生年代のスポーツ等に関する意識を共有する場ができた。 【成果3】専門家とのネットワーク構築 ・ AT、PT、管理栄養士（スポーツ栄養士）など、地域で活躍するスポーツ科学の専門家とネットワークをつくるきっかけとなった。	①学校と専門家の調整方法の確立 ・ 調整役の教職員に負担をかけた。 ・ 日程調整や情報共有のための仕組みを整理し、地域で担えるようにすることが必要である。 ②専門家派遣の財源確保 ・ 今後も継続していくための、専門家派遣費用の財源確保が課題である。 ③子どもの健康づくりの環境 ・ 子どもの基礎的体づくりの大切さを地域で共有し、健康な子ども達を地域で育てる土壌づくりが課題

3. チャレンジクラブについて

3. 1 実施状況

2020年度は、ほとんどの期間が感染症拡大防止のための部活動自粛期間にあたってしまい、限られた回数しか活動できませんでしたが、次のとおり計画しました。

(2020年度)

種目	活動場所	曜日や時間
サッカー	浦和高校グラウンド	水曜 19～21 時
男子バスケットボール	本中体育館	月曜 17～19 時
男子バレーボール	〃	金曜 17～19 時
男女バドミントン	〃	木曜 17～19 時
女子ソフトテニス	本中テニスコート	火曜 16～17 時
野球	市営球場（補助G）	木曜 17～19 時

(参考：2019年度)

種目	活動場所	曜日や時間
サッカー	浦和高校グラウンド	水曜 19～21 時
男子バスケットボール	本中体育館	月曜 17 時半～19 時半
女子バスケットボール	〃	火曜 17 時半～19 時半
女子バレーボール	〃	水曜 17 時半～19 時半
男女バドミントン	〃	木曜 17 時半～19 時半

チャレンジクラブの実施にむけて、施設開放委員会を開催していただき、体育館の夜間利用団体に対して事業の説明および活動時間の調整について依頼し、協力いただくことになりました。

3. 2 チャレンジクラブの成果と課題

コロナ禍による部活動休止期間が長く、チャレンジクラブの実施回数も少なくなってしまうため、成果や課題の把握は十分に行えませんでした。各会議等で出された意見から主な成果と課題を、以下のとおり整理しました。

【チャレンジクラブの成果と考えられること】

- まとまった練習時間を確保できる
- 平日も含めて兼職兼業が認められた実績をつくれた
- 顧問の負担軽減につながった

一方、課題については、以下のようなことがあげられました。

【チャレンジクラブの課題と考えられること】

- 指導者の質と量の安定的確保
- 顧問との連携、部活動との整合
- 指導謝金の長期的・計画的確保

以下に昨年度事業で整理した結果もあわせて、チャレンジクラブに関する成果と課題を抽出して示します。

(1) 生徒にとっての成果と課題（保護者意見も含め）

成果	課題
<u>①まとまった練習時間が確保できる</u> ・ 平日の練習時間が冬は1時間弱も確保できない中で、チャレンジクラブでは、2時間前後の練習時間が確保できる。 <u>②施設が確保できる</u> ・ 体育館種目は、平日の練習は、週に1～2回しか使えない中で、チャレンジクラブでは体育館をまるまる利用できることで、練習が充実した。 ・ サッカーもナイターを使って広いところで練習ができた。 <u>③いろいろな指導を受けられる</u> ・ いつもの部活とは異なった練習プログラムが体験できた。 <u>④上達できた</u> ・ 練習をしっかりとできたので、上達を実感できた。	<u>①塾や習いごととの調整</u> ・ （学期の途中から開始したこともあって）塾などと重なって参加しづらい。 ・ 終了時間が遅く、塾の時間と重なる。 <u>②安全性</u> ・ 20時近い帰宅は、特に女子中学生には不安がある。 <u>③空腹・夕食の時間との調整</u> ・ 通常の練習日より遅くなるため、お腹がすいてしまう。 ・ 家での生活リズムと合わない <u>④疲労感</u> ・ いつもの練習よりも長いので、疲れてしまう。 <u>⑤費用負担</u> ・ 部活に上乗せで費用がかかる。

(2) 学校・教職員

成果	課題
<u>①顧問の負担軽減になった</u> ・ チャレンジクラブのある日は、学校の職務に集中できることで、負担軽減になった。 <u>②兼職兼業が認められた</u> ・ 休止期間にはいってしまい、実践に移せなかったが、週末・平日ともに兼職兼業願いが認められた。	<u>①兼職兼業がこの先も認められるか</u> ・ チャレンジクラブに参加している生徒が、夜間時間帯にイレ等を使用するために <u>②地域指導者との調整</u> ・ 経済的な負担や、体力的な負担を感じる生徒もでることを懸念する。

(3) 地域側（指導者、スポーツクラブ）

成果	課題
<u>①中学生年代のスポーツ環境改善にむけて学校との連携が始められた</u> ・ 地域スポーツ、生涯スポーツの振興の視点から、中高生のスポーツ環境の改善は課題と感じており、学校側と一緒に取組むことになったことは貴重な機会を得たと考えている。 <u>②地域内の関係団体等と認識共有の機会が得られた</u> ・ 少年団、地域スポーツクラブなど、関係団体で認識共有の機会が得られた。 ・	<u>①活動主旨の確立・部活との区別</u> ・ 部活の延長なのか、別のものとするか、生徒のニーズや環境が多様な中で、チャレンジクラブの主旨を整理していくことが必要である。 ・ 塾に行っている子も多くて全員が参加しているわけではない中で、チーム練習などを行うことには課題が残る。 <u>②成果の確認、普段の練習との整合</u> ・ 試合や既存の練習をみていないので、成果が把握しづらい。 ・ 普段の練習との整合が課題。 <u>③安定した取組みとするための人材・施設・財源の確保</u> ・ 一人体制だと、何らかの事情で遅れる時や、行けなくなった時の対応。 ・ 事故や怪我が発生した時のことを考えると複数体制が望ましい。 ・ 指導者の複数体制のための人材確保や施設の定期的な確保、さらにはこのための財源の確保も課題となる ・ 複数の種目で、指導者の質・量を安定的に確保することは容易ではない。 <u>④連絡体制の構築・安全性の確保</u> ・ 屋外の活動などでは、生徒への連絡をどうするかも課題となるのではないかと（今回は保護者携帯メーリングリストをクラブ側で作成して対応）。 ・ 夜間の生徒の帰宅の安全管理など、保護者との連携も課題となる。

4. アンケート調査結果

4. 1 生徒

本太中学校の1年生、2年生を対象にアンケート調査を実施しました。

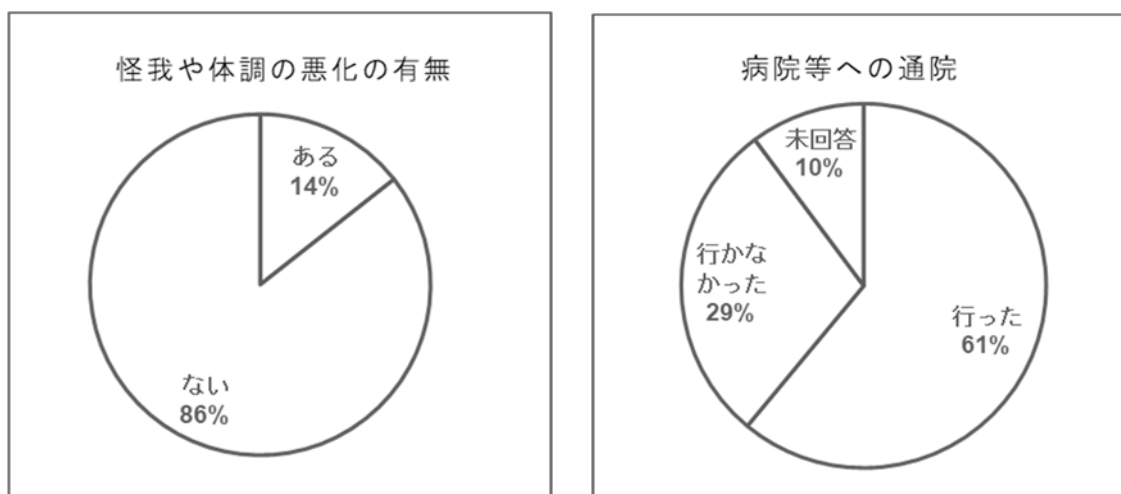
調査は、WEB回答方式として、全生徒を対象に、アンケートの主旨説明と回答のお願い文を配布し、アンケート実施サイトにつながるQRコードを案内しました。

この結果410名から回答がありました。結果を以下に示します。

(1) 怪我や体調不良・生活習慣など

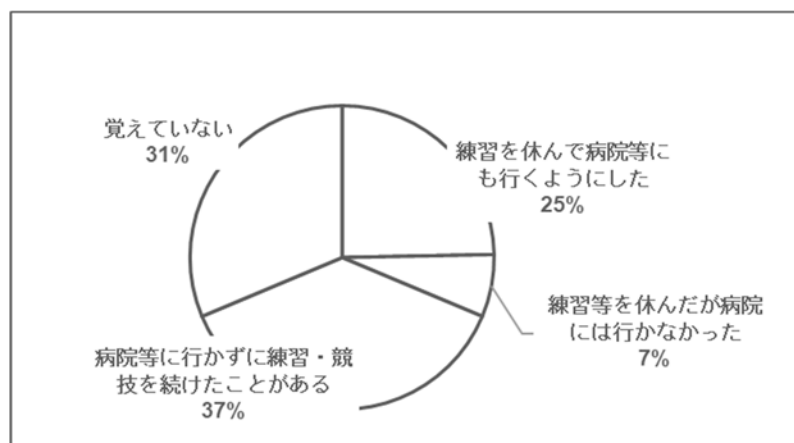
①現在、怪我や体調が悪いところはあるか？ 病院等には行ったか？

- ・ 怪我や体調が悪化している生徒は14%でした。
- ・ 病院等に「行った」生徒は6割、「行かなかった」生徒は29%でした。



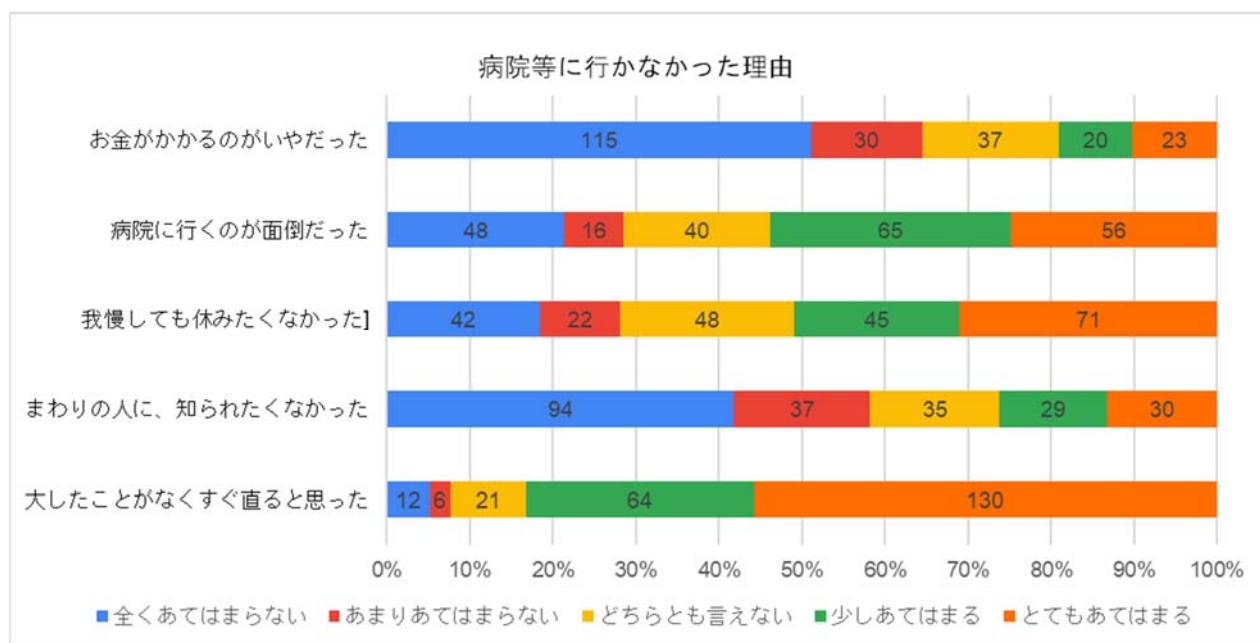
②怪我や痛みを抱えながら、病院等にいかずに練習・競技を続けたことはあるか？

- ・ 病院等にはいかず、練習・競技を続けた生徒が37%と最も多くなりました。



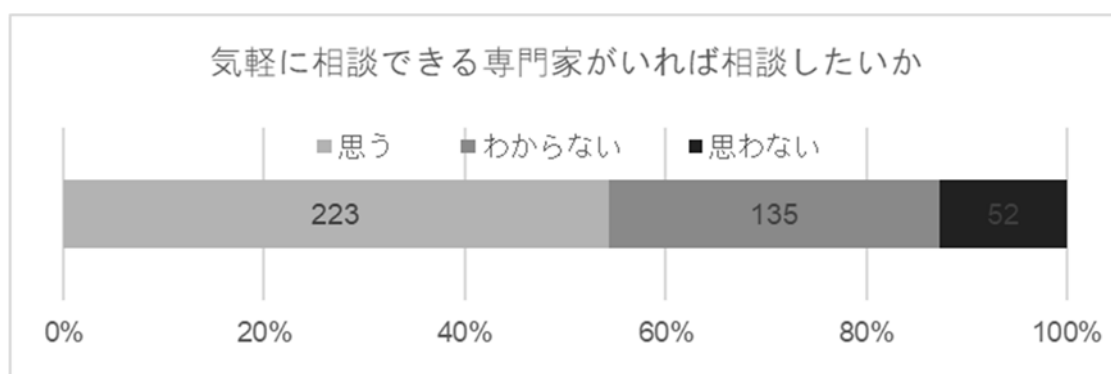
③ 怪我や痛みがあっても病院等に行かなかった理由

- ・ 8割を超える生徒が「大したことがなくすぐ直ると思った」と判断していました。
- ・ 「我慢しても休みたくなかった」としている生徒も5割を超えています。
- ・ 経済的な理由をあげた生徒は2割程度でした。



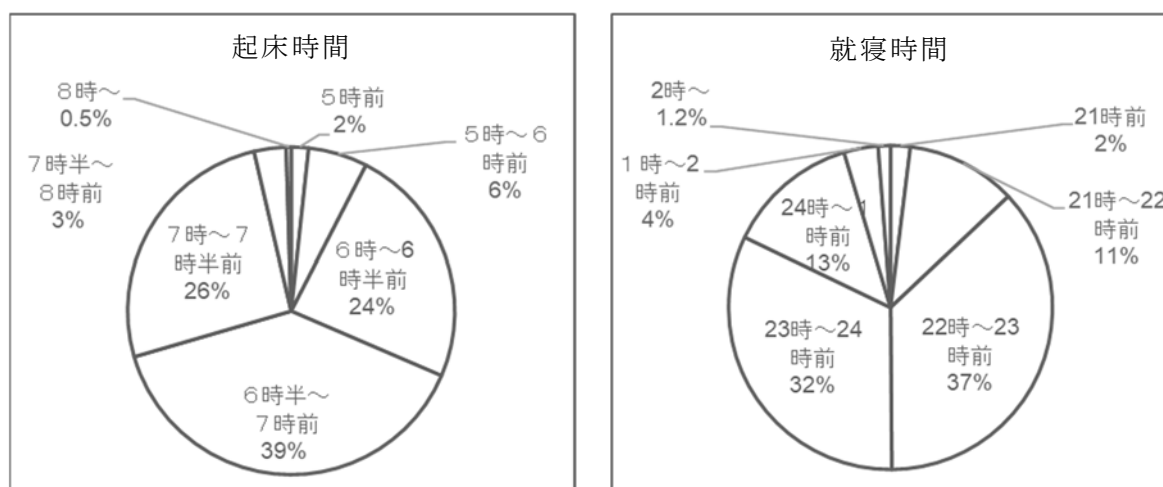
④ スポーツの怪我や痛みなど、気軽に相談できる専門家が身近にいれば相談するか？

- ・ 「相談する」とした生徒が5割を超えました。



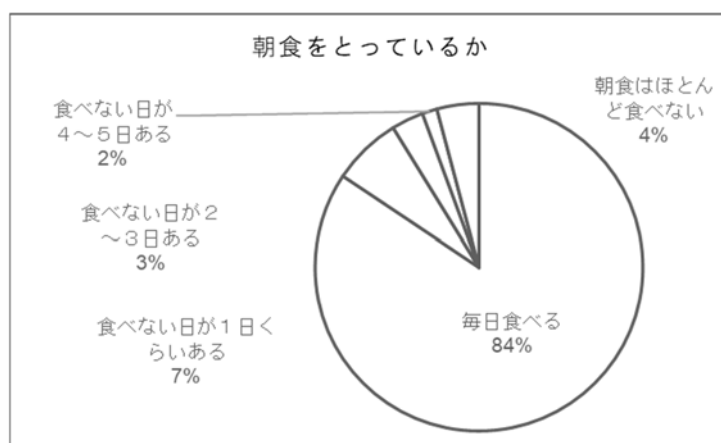
⑤ 学校のある日は、だいたい何時頃に起きますか？ 何時頃寝ていますか？

- ・ 起床時間は、6時半～7時の間が最も多く約4割となりました。
- ・ 就寝時間は、22時～24時の間で7割に達しました。



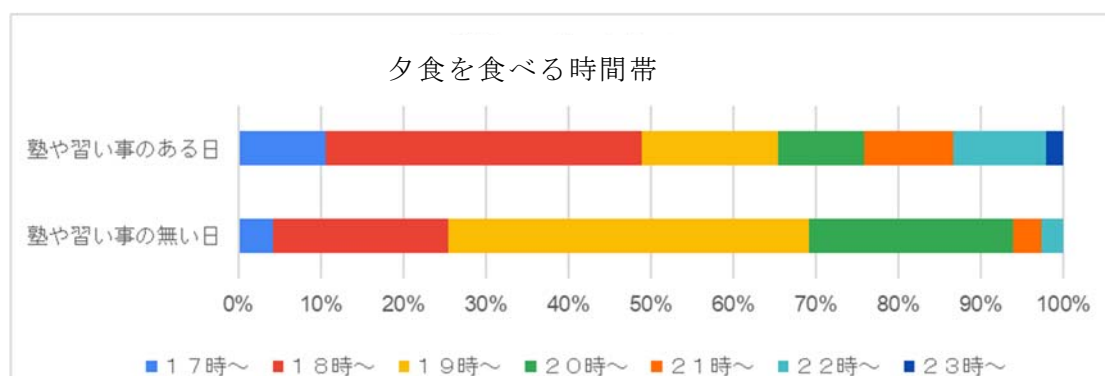
⑥ 朝食を食べない日は週に何日ありますか

- ・ 「毎日食べる」生徒が8割を超えています。
- ・ 朝食を欠かしがちな生徒が1割近くいました。



⑦ 夕食を食べるのは、だいたい何時頃ですか

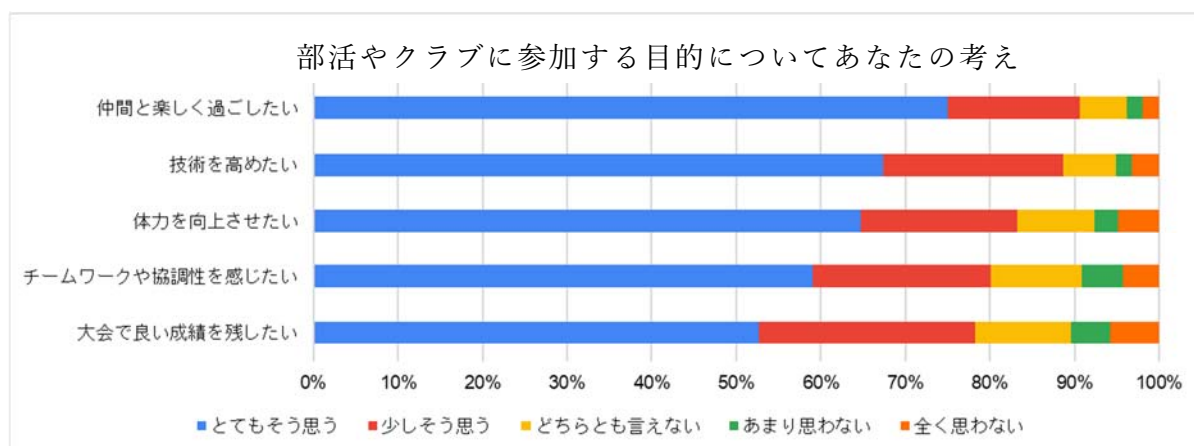
- ・ 塾などがある日は、19時までに食べている生徒が最も多く塾等に行く前に食事をとっていることが推察されます。



(2) 部活動に関連して

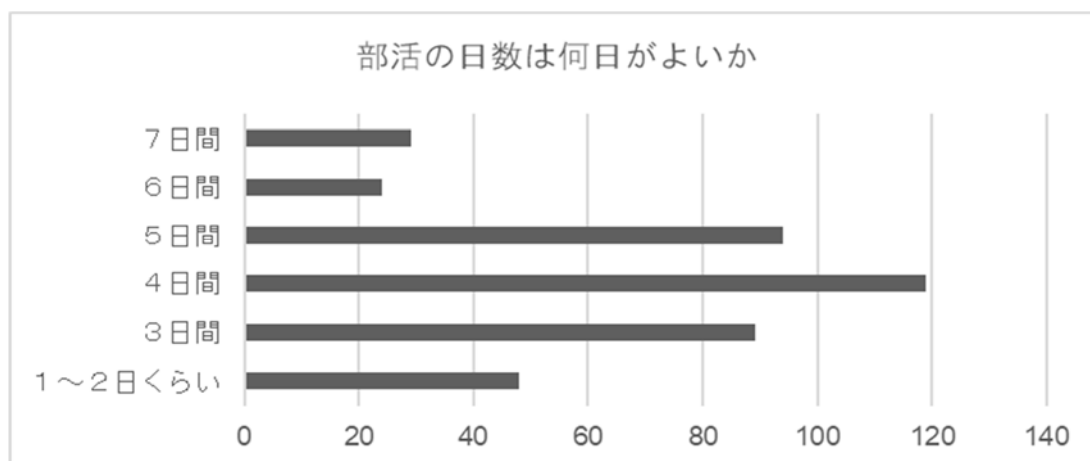
① 部活やクラブに参加する目的についてあなたの考えに近いものは

- ・ 「仲間と楽しく過ごす」が最も多く、9割の生徒が「とてもそう思う」「少しそう思う」としています。
- ・ 「技術を高めたい」「大会で良い成績を残したい」と考えている生徒も高い割合でいることがわかりました。



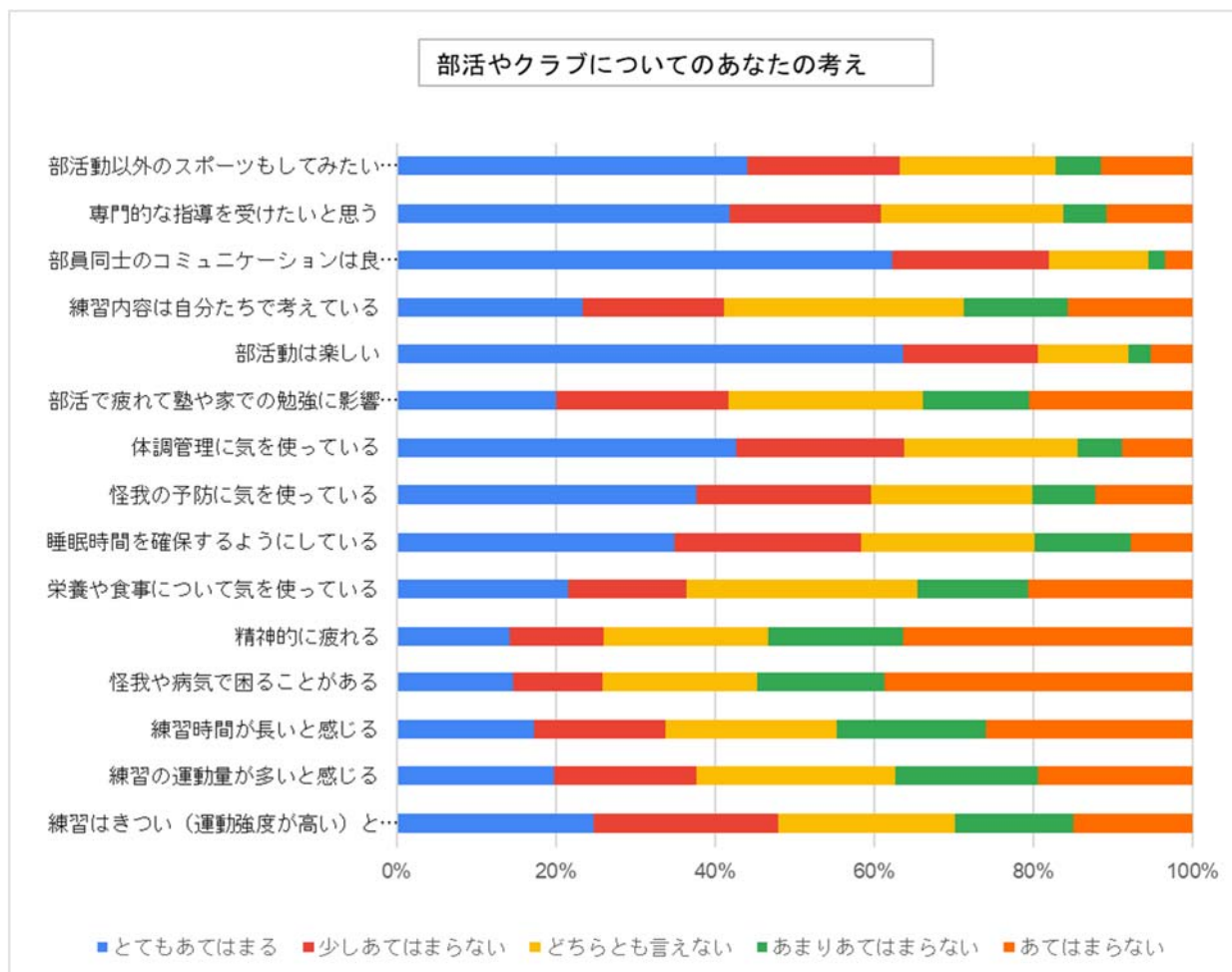
② 部活動は週に何日くらいが良いと思いますか

- ・ 4日間くらいとした生徒が最も多くなりました。(約3割)
- ・ 次いで、3日間、5日間とした生徒が、それぞれ2割強となりました。



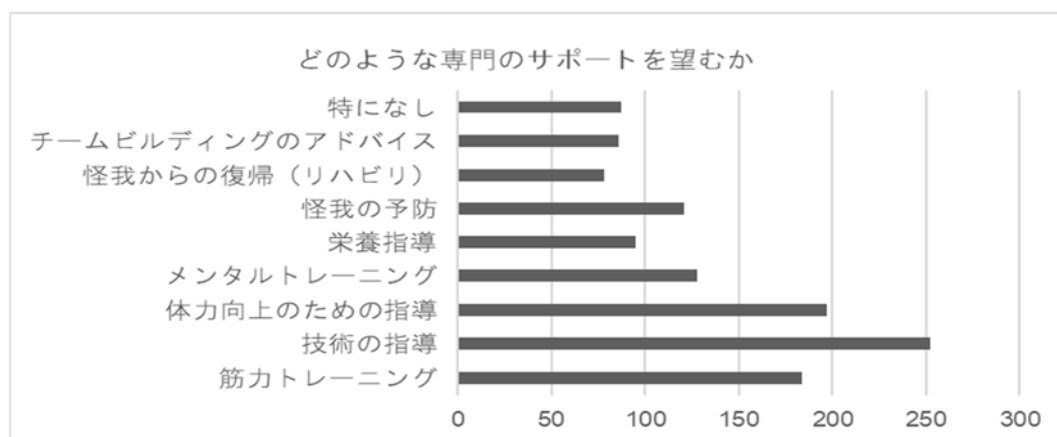
③ 部活動やクラブについてあなたの考えに近いものは

- ・ 部活は楽しいと感じている生徒は、8割に達しました。
- ・ 部活以外のスポーツもしてみたいと考える生徒が6割を超えています。
- ・ 部活が、塾や家での勉強に影響すると感じている生徒も4割いました。
- ・ 体調管理、怪我の予防、睡眠時間の確保などへの意識は高く、いずれも6割前後の生徒が留意しているとしています。
- ・ 一方、栄養や食事に配慮している生徒は4割以下と低い割合となりました。



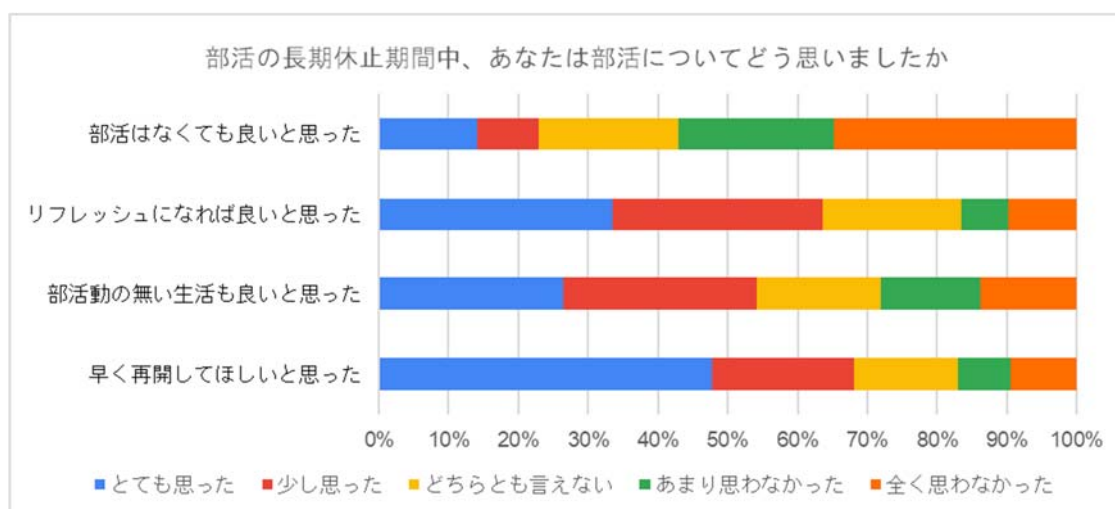
④ 専門家には、どのようなサポートを希望しますか。

- ・ 専門家に望むサポートで最も多いのは「技術の指導」で、6 割の生徒が望んでいます。
- ・ 「体力向上」や「筋力トレーニング」も多く、おおよそ 4～5 割に達しました。



⑤ コロナ対策で部活動などが長い間休みになってしまった時、どう思いましたか？

- ・ 「再開してほしいと思った」生徒が 7 割近くになりました。
- ・ 「部活はなくても良いと思った」生徒はおおよそ 3 割でした。
- ・ 「部活動の無い生活も良いと思った」生徒は 5 割を超えました。
- ・ 「リフレッシュになれば良い」とポジティブにとらえた生徒が 6 割を超えました。



4. 2 保護者

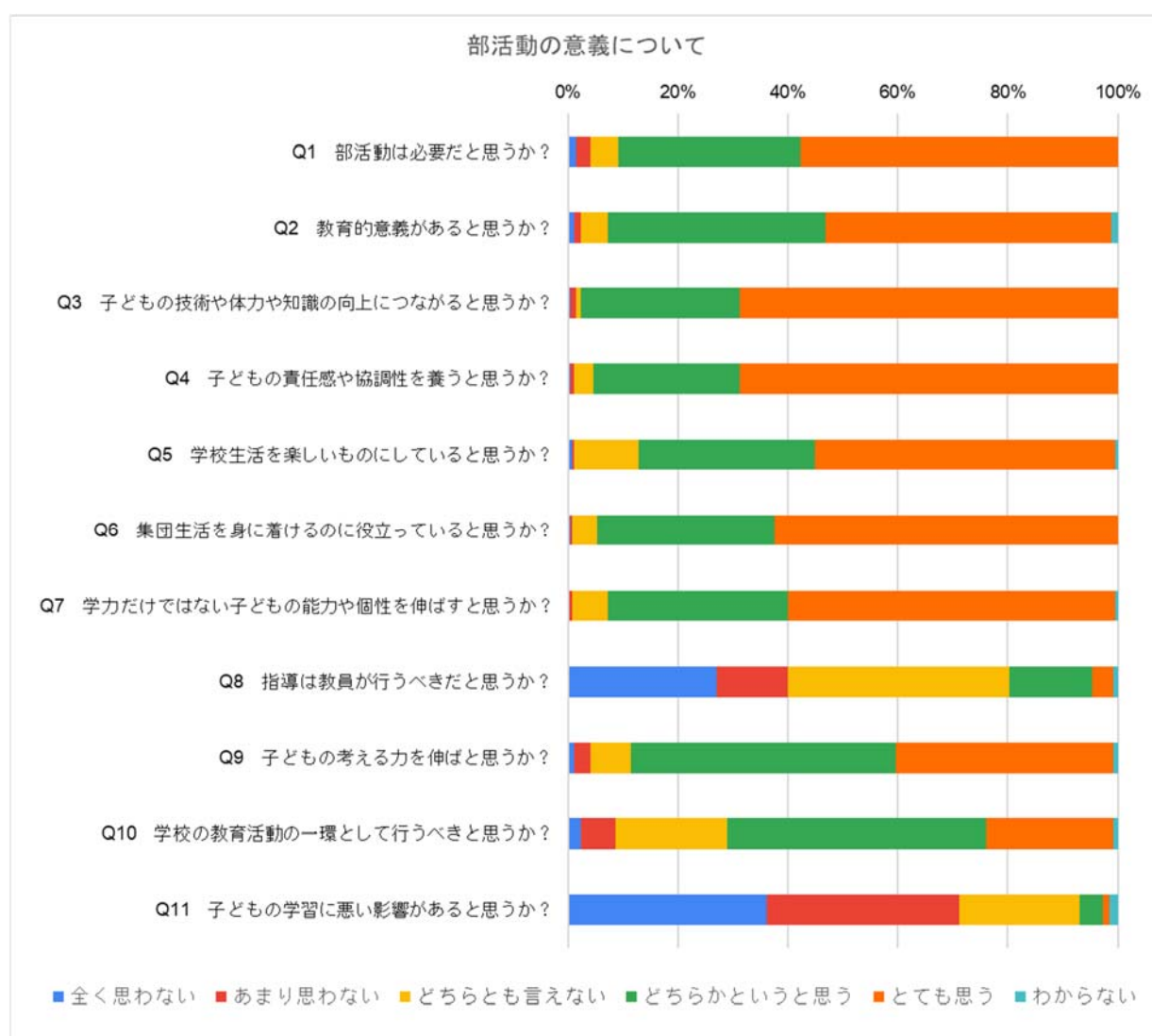
本太中学校の1年生、2年生の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。

調査は、WEB回答方式として、保護者向けの一斉メールで、アンケートの主旨説明とお願い配信しました。

この結果263名から回答がありました。結果を以下に示します。

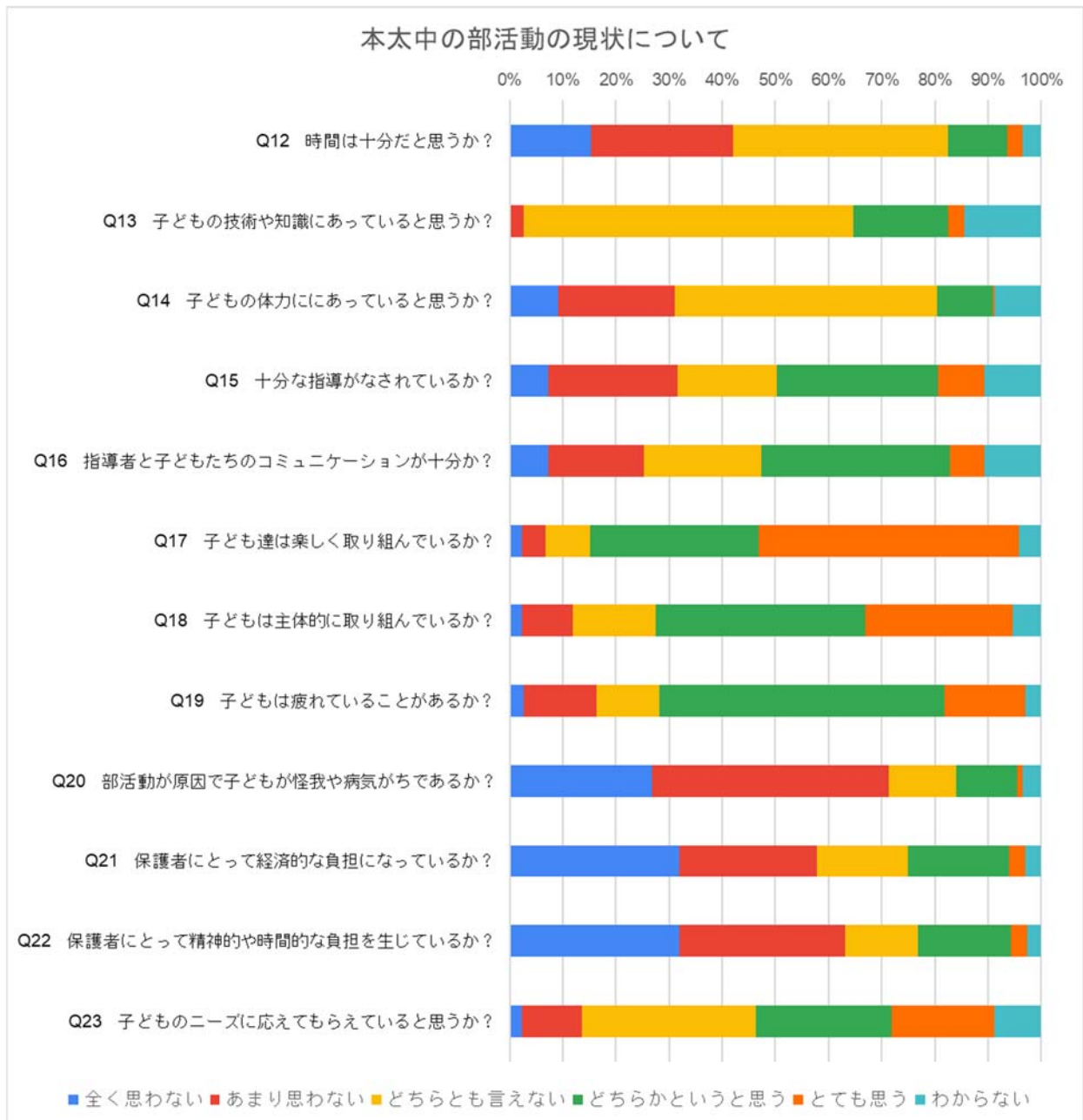
(1) 部活動の意義について

- ・ 部活の教育的意義、体力・技術の向上等について、肯定的な意識を持つ保護者がほぼ9割以上となりました。
- ・ 部活は必要だと思うとした保護者が9割を超えていますが、「全く思わない」とした方もいました。
- ・ 「指導は教員が行うべき」と考えている保護者は2割程度です。「そう思わない」保護者が4割、「どちらとも言えない」とされている保護者も4割になりました。
- ・ 「教育活動の一環として行うべき」とした保護者が7割に達しています。



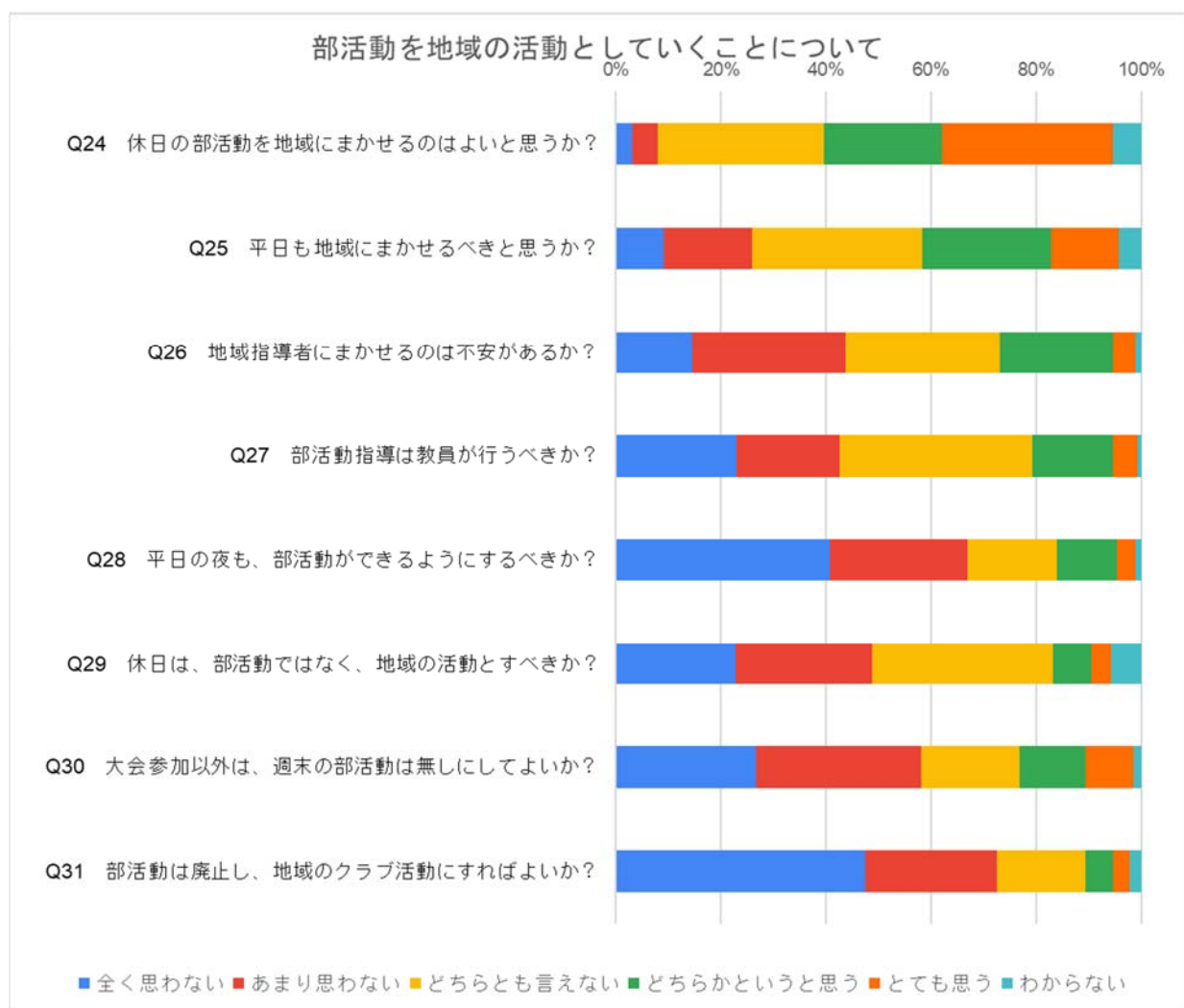
（２）本太中の現在の部活動について

- ・ 「どちらとも言えない」が多くなったのは「技術や知識にあっていると思うか」「体力にあっているか」「ニーズに応えているか」などの間であり、保護者にとっては判断がしづらい状況にあることが推察されます。
- ・ 8割以上の保護者が「楽しく取り組んでいる」と考えていますが、「疲れていることがある」としている保護者も7割を超えています。
- ・ 「経済的負担」「精神的負担」を感じている保護者が、それぞれ3割程度いました。



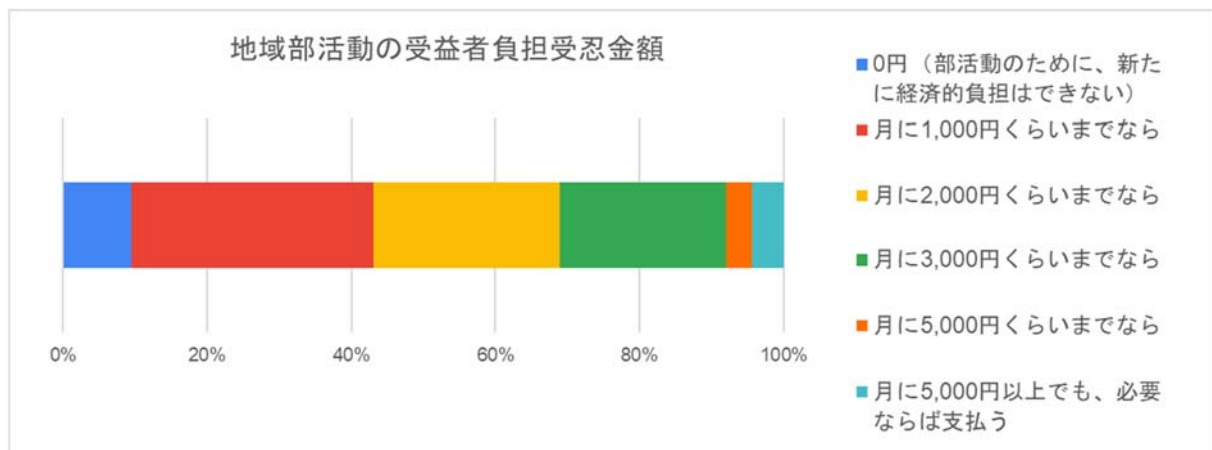
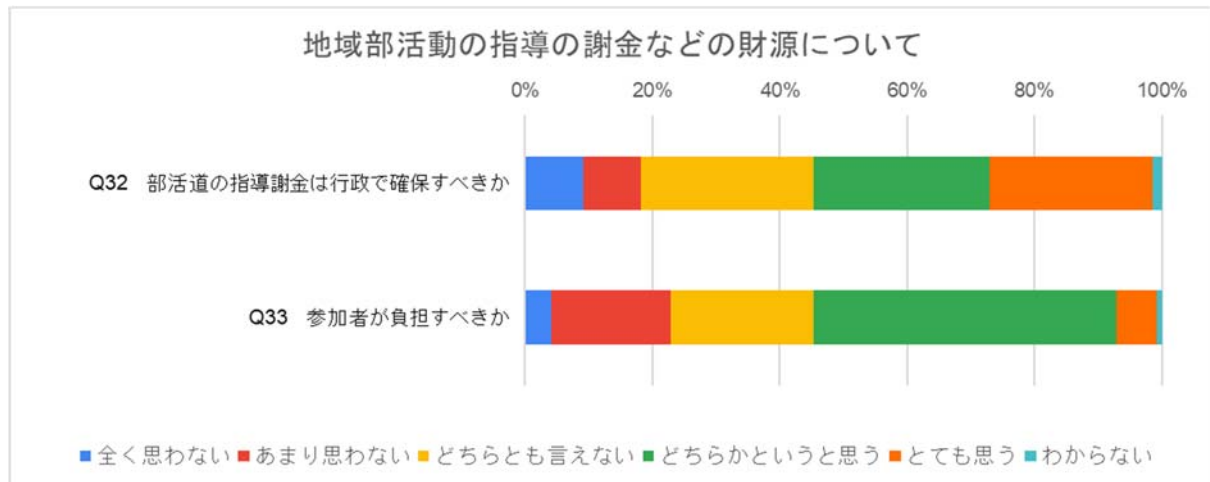
(3) 休日部活動の地域移行について

- ・ 休日部活動を地域にまかせることについて、肯定的な考えの方が6割程度、否定的な考えの方は1割程度でした。
- ・ 平日については、否定的な考えの方が2割を超え、肯定的な考えの方も4割程度なりました。
- ・ 地域指導者にまかせることを「不安と思う」考えの方が2割、「不安はない」考えの方が4割を超えています。
- ・ 平日夜の部活動の実施には、「賛同しない」考えが6割を超えました。
- ・ 休日の活動を、部活動ではなくすることについても、否定的な考えの方が5割に達しました。



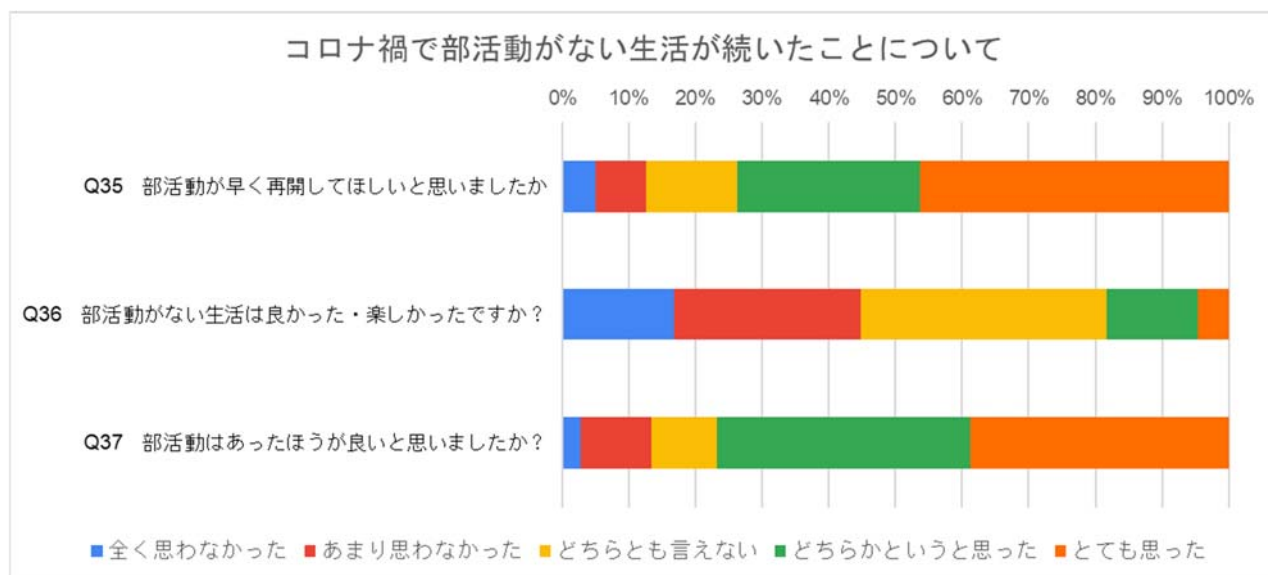
(4) 費用負担等について

- ・ 指導謝金の原資は、行政で用意するべきと考える方が5割を超えました。
- ・ 受益社負担についても「どちらかという思う」が概ね5割ありましたが、「経済的負担はできない」とした方が1割、「月 1000 円程度」とされた方が3割に達しました。



(5) コロナの影響で長期休止になったことについて

- ・ 部活の早期再開を望む意見が7割以上に達しました。
- ・ 部活のない生活について評価する意見は2割以下と少なくなりました。



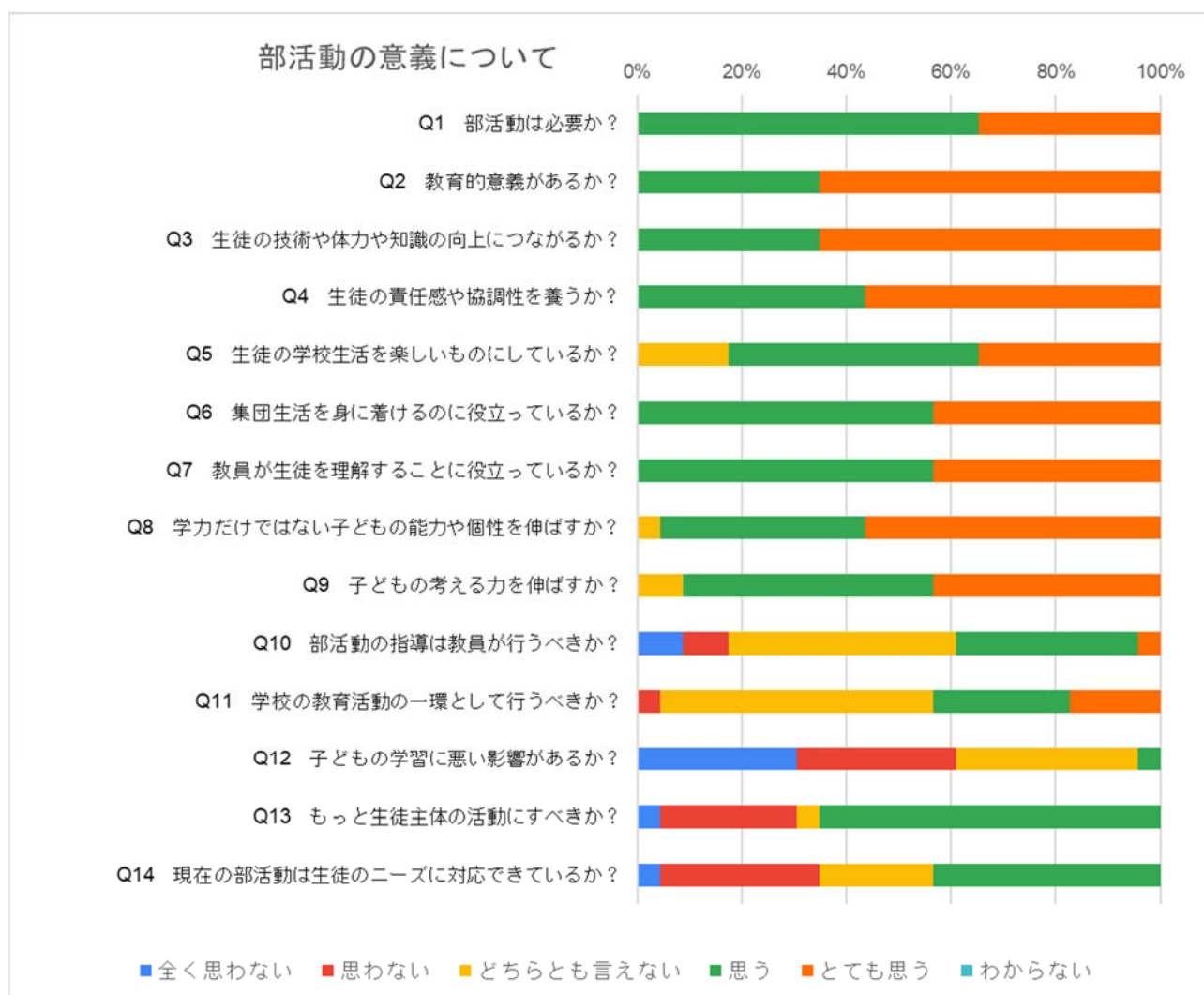
なお、保護者の方からいただいた自由意見については、(参考3)として巻末に掲載しています。

4. 3 教員

本太中学校の教員を対象にアンケート調査を実施しました。
無記名のWEB回答方式として、23名から回答を得ました。

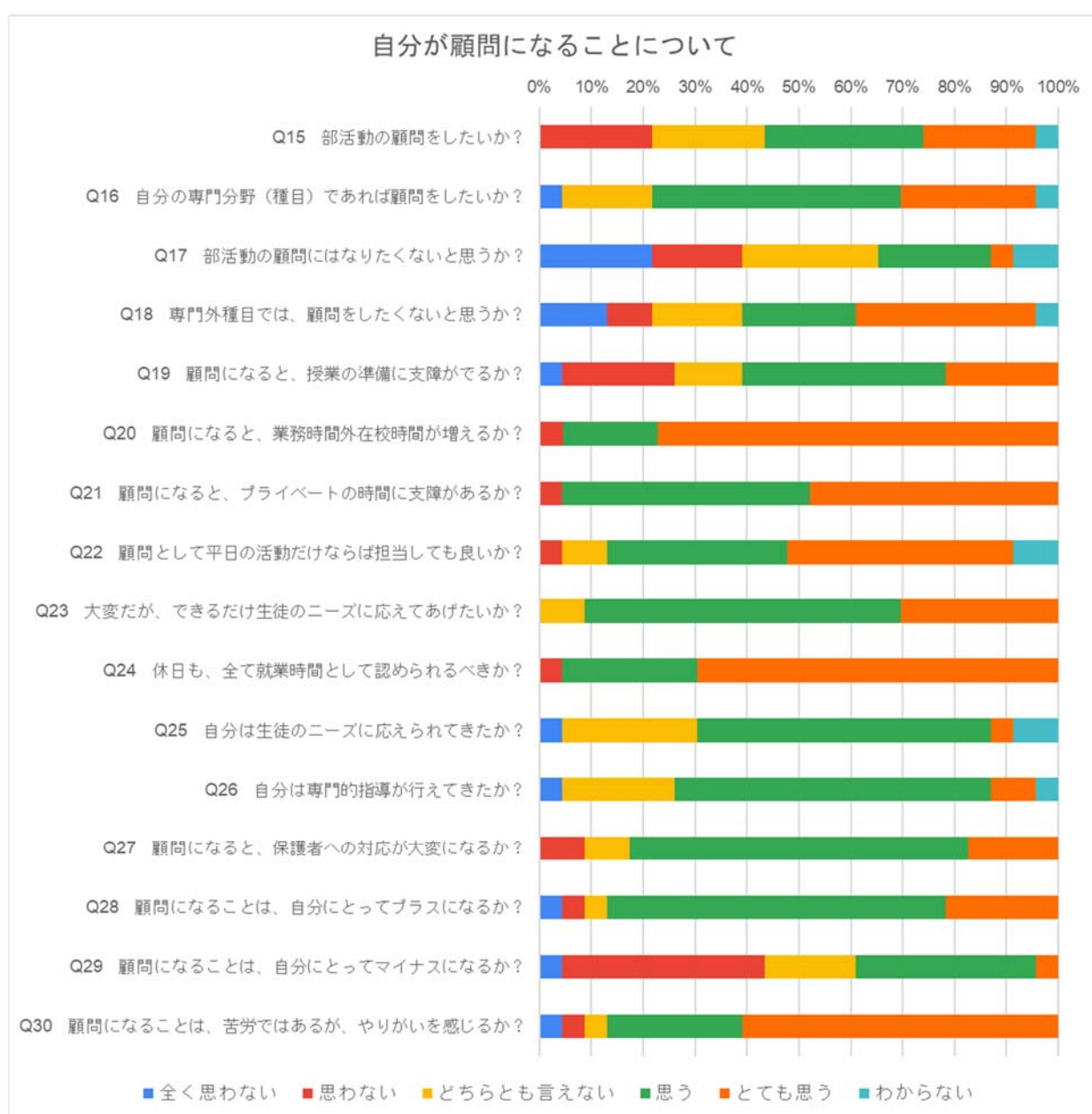
(1) 部活動の意義について

- ・ 回答者全員が部活動は必要であるとされ、教育的意義など、いわゆる部活動の効果についても、皆さんが認めています。
- ・ 「指導を教員が行うべきか」については、「思う」が4割、「思わない」が2割となりました。
- ・ 「生徒主体の活動にすべき」と「思う」が6割を超えました。



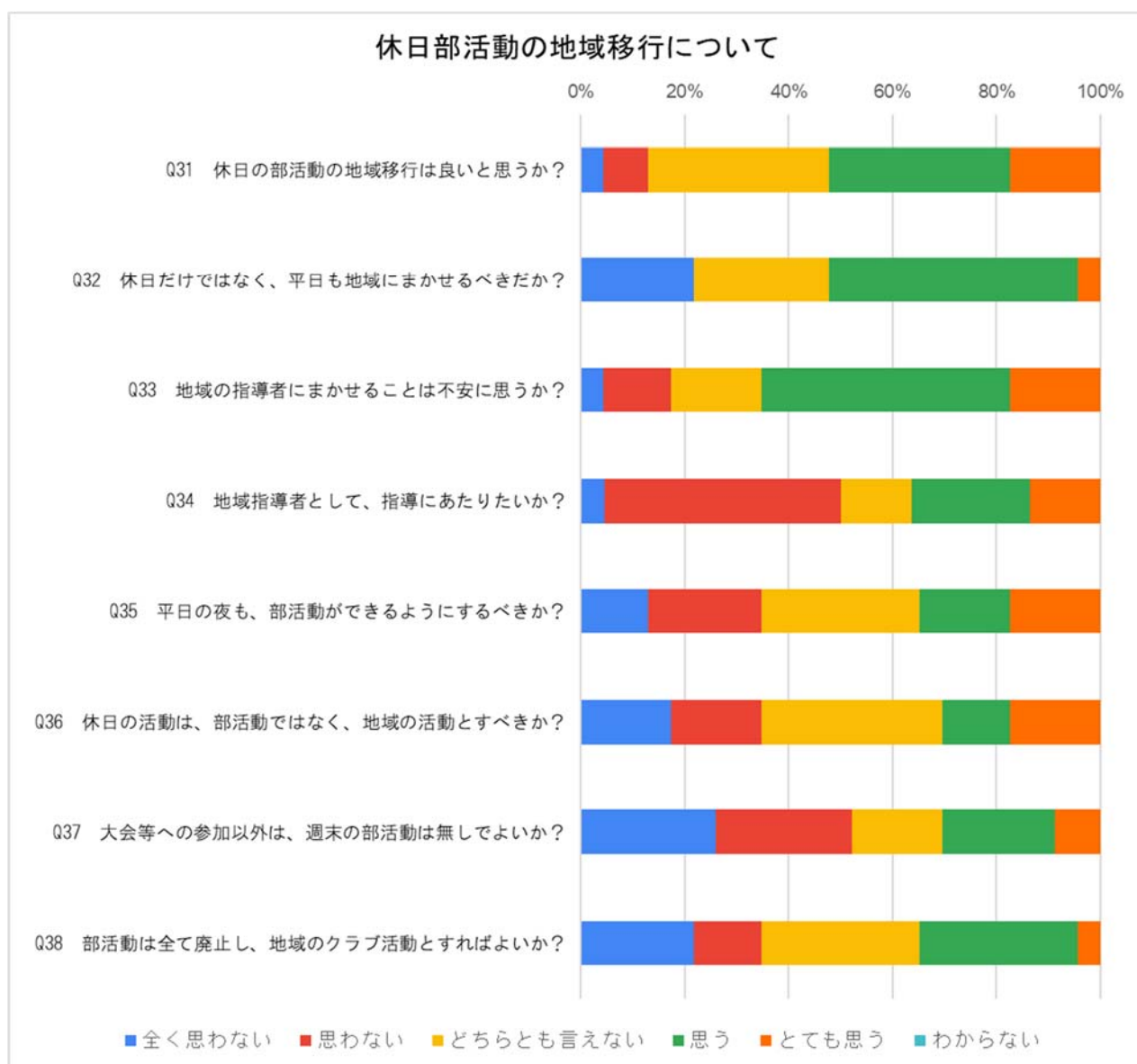
(2) 顧問になることについて

- ・ 「顧問をしたい」が 5 割を超え、「自分の専門分野であれば」とするとさらに増加し、おおよそ 8 割に達しました。
- ・ 「専門外種目では顧問をしたくない」と考えている方が、5 割を超えています。
- ・ 顧問になることで、「在校時間が増える」「プライベートに支障が出る」と感じているが 9 割を超えています。
- ・ 顧問は、大変だが、やりがいを感じる、自分にプラスになる、生徒のニーズにできるだけ応えてあげたいとする方が 8 割を超えています。
- ・ 一方、「マイナスになる」部分もあると感じている方が 4 割程度いました。



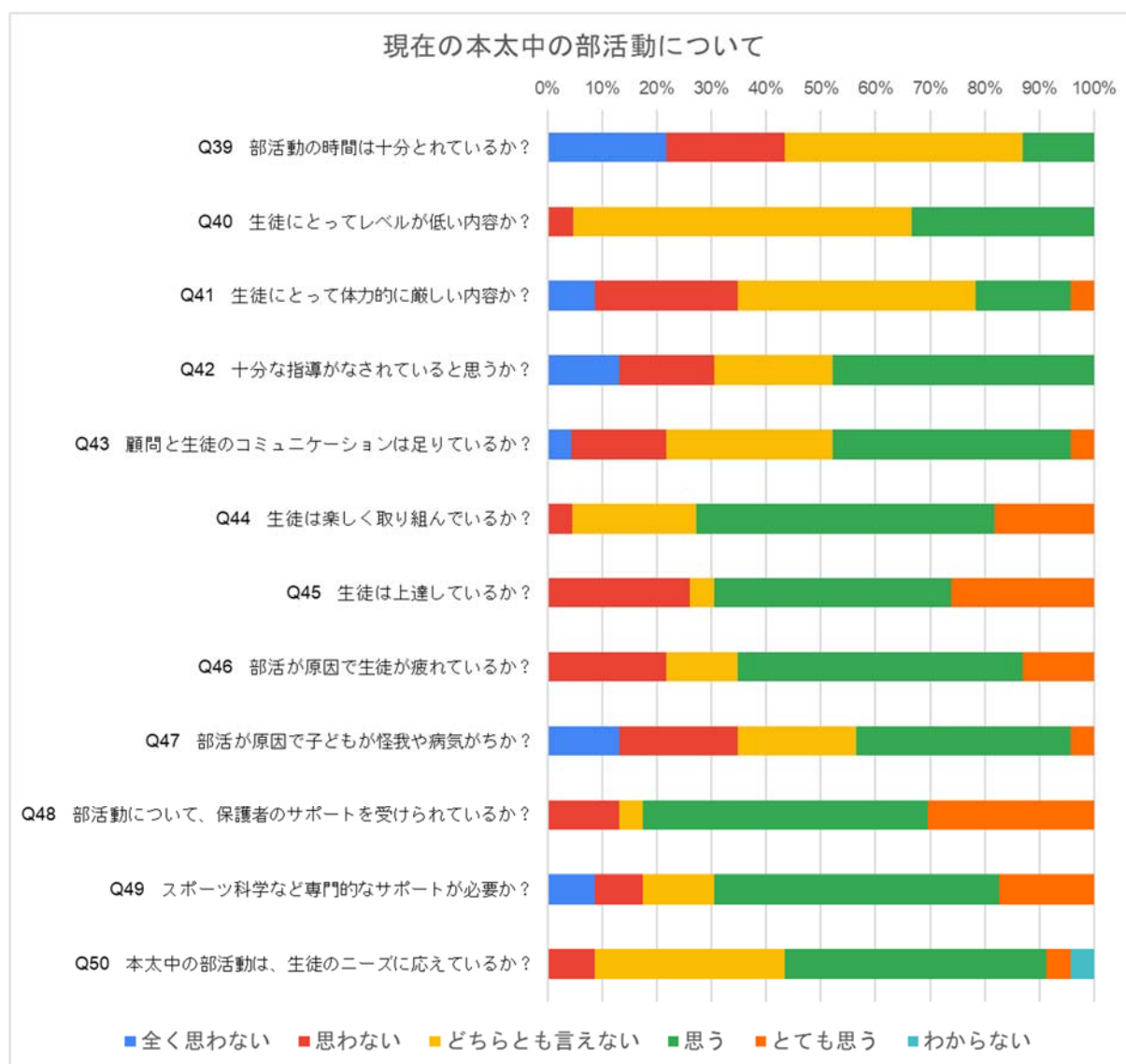
(3) 休日部活動の地域移行について

- ・ 休日部活動の地域移行について肯定的にとらえている方が概ね 5 割、否定的な意見は 1 割程度でした。
- ・ 地域の指導者にまかせることについては、「不安」を感じる方が 6 割を超えています。
- ・ 地域指導者として指導にあたりたいと考える教員が 3 割、あたりたくないとする教員が 5 割となりました。
- ・ 平日夜の活動については、肯定・否定・中間がそれぞれ同程度となりました。



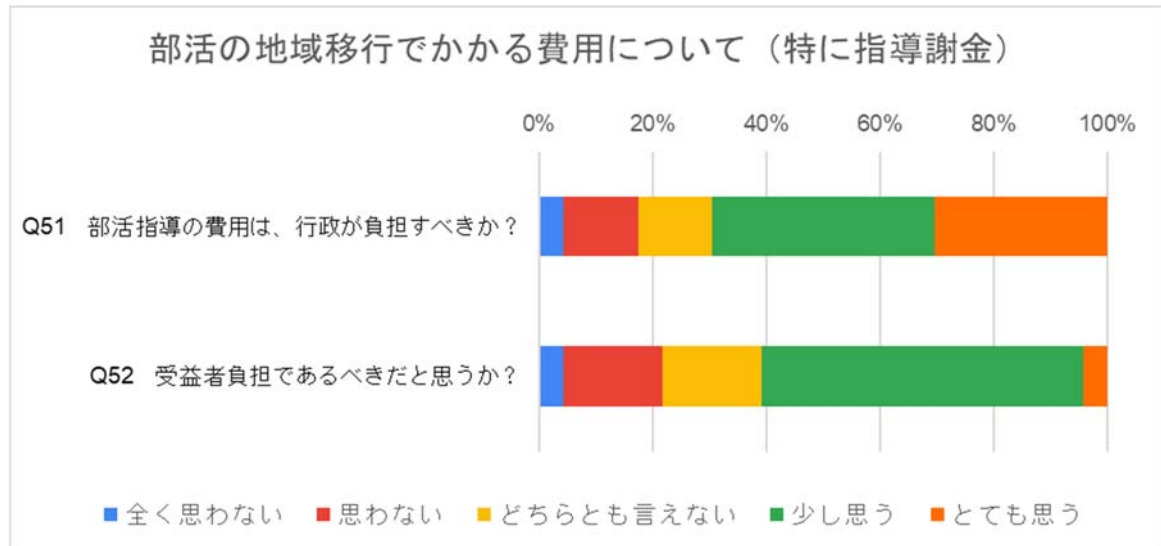
(4) 現在の本太中の部活動について

- ・ 部活動の時間は不十分だと感じている教員が 4 割を超えています。
- ・ 生徒の技術レベルや体力レベルとの整合については、「どちらとも言えない」が 6 割を超えました。
- ・ 「生徒が疲れている」と感じている方が 6 割以上となりました。
- ・ スポーツ科学の専門家のサポートがあると良いと思う教員が 6 割、否定的な意見が 2 割程度となりました。



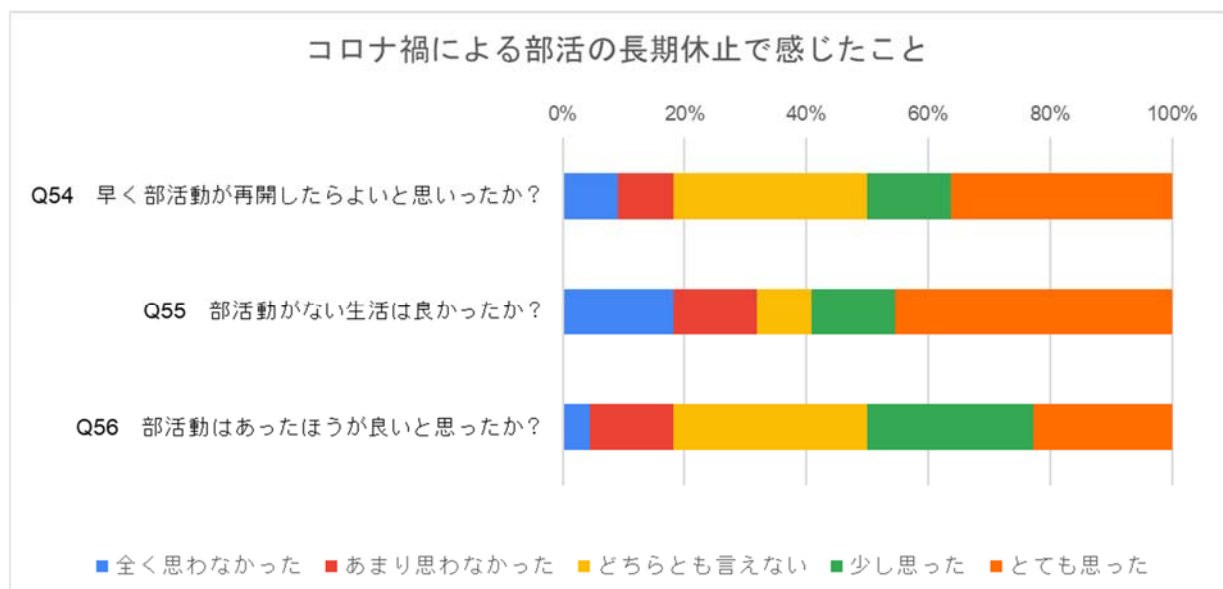
（５）地域部活動における財源について

- ・ 地域移行時の指導謝金については、ともに６割を超える方が行政負担、受益者負担を求めています。



（６）コロナ禍の部活動休止で感じたこと

- ・ 部活動の再開を望む意見が５割となりましたが、一方で「ない生活を良いと感じた」意見も６割を超えています。



5. 部活動改革にむけて

5. 1 課題の再整理

(1) 当初の課題設定と事業成果について

本事業は、「1.2 事業の経緯」に示したとおり 2017 年度に学校・スポーツ科学専門家・地域スポーツクラブの 3 者の話合いで抽出された課題の解決を目指して、「専門家の派遣」と「チャレンジクラブ」という 2 つの解決策を試行してきました。

【当初の課題設定】

○生徒の怪我等の防止、

中学校の運動部活動の実施的な活動期間は 2 年間程度であるが、怪我や痛みを抱え復帰を焦り、症状を悪化させたり、十分なパフォーマンスを取り戻せずに悩んでいたりと、復帰をあきらめざるを得ない生徒も少なくない。

○生涯スポーツにつながる知識と体づくり

生活習慣病の予防などの観点からも若年層のスポーツ実施率の低下が問題視されているが、適度な運動やスポーツに親しむ習慣は、子どもの頃のスポーツ体験や健康・体力づくりに関する正しい知識が影響しているものと考えられる。中学・高校などでこのようなスポーツ体験や、知識を習得する機会をつくる必要がある。

○教職員の負担軽減

部活動顧問の教職員の勤務環境の改善は喫緊の課題となっている。

特に、放課後の時間帯における部活動の指導の後に、授業の教材づくりなど校務を行うことでの超過勤務が大きな負担になっていることなどが指摘されている。

○指導実績のある指導者の確保

担当をする部活動の種目経験の無い教職員も少なくない。教職員本人にとってもストレスが増えると同時に、生徒や保護者は技術的指導を求めてストレスを持つ原因となっていると考えられる。

【解決策の試行】

アスレティック
トレーナー等
専門家の派遣

チャレンジ
クラブ

2019年度事業でそれぞれの効果や実現・導入にむけた検討要素を推察し、今年度、その検証を進める計画でしたが、コロナ禍により実質的な活動期間がほとんどとれず、検証作業が十分には進められませんでした。

しかしながら、関係者との意見交換・情報交換をとおして、改善を目指した4つの課題に対して、専門家派遣とチャレンジクラブは、課題解決の方策となりうる可能性はある程度示されたものと考えられます。

ここで示した導入のための検討要素について、昨年度調査において、検討の進め方の案を示しています（本報告書巻末（参考2）に記載しました）。

	効果	実現・導入のための検討要素
専門家派遣	○生徒の怪我等の防止 ○生涯スポーツにつながる知識と体づくり ○教職員の負担軽減 ○生徒の意識向上（能動的練習姿勢）・競技力向上	○顧問、生徒の理解 ○わかりやすい指標作成 ○顧問、専門家、生徒の認識・情報の共有化 ○調整作業の軽減 ○派遣のための財源確保
チャレンジクラブ	○教職員の負担軽減 ○指導経験のある指導者の確保 ○練習の充実（時間と施設の確保）・競技力向上	○既存部活動との整合、趣旨の明確化 ○生徒の生活時間（塾や食事等）との整合 ○複数人の指導者体制の構築 ○施設の確保 ○財源の確保

（２）各種会議の開催

前述のとおり、今年度事業は、2019年度事業で検討した改革方策についての検討を深めることを目的としていました。

そのような中、9月1日に文部科学省から「休日部活動の地域移行」の方針が発表されたことを受け、以下の会議においては、チャレンジクラブの試行から出てきた課題や成果をもとに、今後の部活動の地域移行にむけた検討課題についても意見交換を行いました。

■会議

開催日	会議名	主な議題
10/22	実行委員会	本年度事業計画の実施調整
10/25	地域協議会	「休日部活動地域移行」の方針を受けた意見交換
12/17	実行委員会	実施内容調整
1/25	実行委員会	長期休止を踏まえた検討
2/8	実行委員会	非常事態宣言延長を受けて
2/24	ミニシンポジウム (地域協議会・合同意見交換会)	学校、保護者、専門家、地域指導者、 地域スポーツクラブ意見交換



■会場の出席者数を減らすためにオンライン参加も用意■

(3) スポーツ科学の専門家派遣について

■主なメリット

スポーツ科学の専門家派遣は、

- ・ 生徒や教員の知識や意識を高めることに有用であり
- ・ 怪我の減少や、パフォーマンスの向上にもつながっている
- ・ 生徒が、能動的に考えるきっかけにもなっている

■継続するための主な課題

スポーツ科学の専門家派遣は、

- ・ 専門家への対価の財源が必要
- ・ 教員との調整作業の負担を軽減する仕組みが必要

■課題解決にむけて考えられる方策（案）

調整作業の負担の原因は期間の限られた事業で行ったことによるところが多く、年間で予定を組むことで、かなりの部分が解消し、さらにSNS等の活用により学校予定と専門家の情報共有が進むものと思われ、大きな課題は財源の確保になります。

財源としては、次の3つが考えられます

- ・ 行政による専門家の雇用や委託、toto等の公的助成
- ・ 保護者会、OB会、商店会などによる寄付等
- ・ 地域スポーツクラブ等による雇用・派遣

保護者会やOB会によるトレーナーの派遣などは、高校や大学では取り入れているところも少なくありません。多くの場合には、関連の職業を持たれている専門職の個別契約や派遣という形をとっていることが多いようです。

専門家の雇用の安定にも考慮しながら、地域にあった専門家の確保を恒常的にする検討を進める必要があります。

(4) チャレンジクラブ・部活動の地域移行について

①チャレンジクラブについて

良いところ	課題・疑問
・ もっと練習をしたい生徒にとっては練習の場が増えて良かった ・ その分、通常の活動が減るならば、教員の負担軽減になる	・ 時間帯 ・ 費用負担 ・ 一定の質の指導者の確保 ・ 学校部活動との考え方の整理 ・ 教員の指導参加

- ・ 時間帯については、あらかじめ決まっていれば塾等との調整は可能であるとの意見が保護者の方から出されています。
- ・ 費用について、受益者負担に関する保護者の理解度は高いものの、塾などと同等の金額（月1～数万円）となることについては、「学校施設を優先的に利用することの公共性」や「子どものスポーツ環境に経済格差をできるだけ持ち込まない」といった視点から望ましくないとの意見が多くみられました。
- ・ しかし、活動を継続して安定して行っていくためには、一定規模の経済活動にすることが、この地域では避けざるを得ないであろうことについても、会議参加者の間では理解されていました。
- ・ また、活動経費の一部として、学校施設の利用者から協力をしていただくことも考えるべきだとの意見も多く聞かれました。
- ・ 指導者の確保についての懸念がそれぞれの立場から出されました（保護者、教員、クラブ）。退職教員、小学校教職員、学生（OBやOG）の活用（確保）を進めることが必要とされました。
- ・ また、活動時間帯が夜間等になった場合には、指導者が複数いないと事故等があった場合の対応に不安があることも出されました。
- ・ 今年度の試行にあたり、管理責任などにおいては「浦和スポーツクラブの活動であること」を学校とクラブで確認をして実施しましたが、内容については、完全に分離したものとしてとらえるのは難しい（特に、チームスポーツでは）といった意見がありました。
- ・ また、教職員と異なり、地域指導者は種目別にバラバラなので、認識を共有しづらいのではとの懸念も出されています。地域スポーツクラブがこれを担っていくとすれば、地域スポーツクラブの中で種目に関わらず指導者間で意識を共有する機会を持つことが求められることになります。
- ・ 教員の指導参加については、兼職兼業の扱いが課題となりましたが、今年度、学校側でとりまとめをして提出をしたところ、教育委員会から許可があり、教員の方の参加が可能となりました（実際には、コロナによる休止で実現しないまま事業期間が終了します）

②部活動の地域移行について

文部科学省方針の部活動の地域移行については、チャレンジクラブと同様の課題に加えて、多くの疑問があり、令和5年度からの導入にむけて大きな不安があるとの意見が多くみられました。

主な疑問点や懸念事項は次のとおりです。

- 管理主体はどこになるのか
- 土日だけなのか？ 将来は、平日も対象になるのか？
- 「部活動」であれば学校教育の一部になるので、行政が指導者へのフィーを用意するのか

本太中学校の生徒の多くは、本太小学校と北浦和小学校から進学しています。本事業で開催した地域の関係者の会議には、それぞれの小学校を拠点とする少年団の指導者にも参加いただき、意見交換を行ってきました。

スポーツ少年団立ち上げ時の目的には、小学生年代ではなく、成人するまで、地域の少年・少女がスポーツを続けられる環境づくりを掲げており、中学生年代のスポーツ環境を良くしていくことも、地域の指導者の皆さんがマインドとしてお持ちであることへの認識を共有してきました。

地域のスポーツ関係者（少年団指導者や、地域スポーツクラブ等）としては、部活動のみに、フォーカスするのではなく、中学生年代のスポーツ環境のあり方を考えながら、部活動についてもサポートできることを、協力して考えていきたいと考えます。

また、運動部活動の改革よりも先に教育委員会で行われているコミュニティスクールとの関係も考慮する必要があります。

活動の主旨から考えると、コミュニティスクールの活動として、学校を活用した地域事業を推進するとともに、そこでの収益なども活かしながら部活動支援等を進めていくことが望ましいのではないかと考えられました。

5. 2 今後の取組について

休日の部活動の地域移行については、国や市の事業の詳細が決まらないため、これまでの取組みを進め、当初想定した本太中学校の運動部活動の環境改善に引き続き取組み、そこで出てきた課題を関係者で協力しながら解決にあたることとします。

(1) R3年度(2021年度)から当初から取り組むこと

○チャレンジクラブの定期化

- ・ 新年度早々に調整を始め、1年生の部活動が決まるGW明けからは、希望する種目からチャレンジクラブの開始できるように準備する。

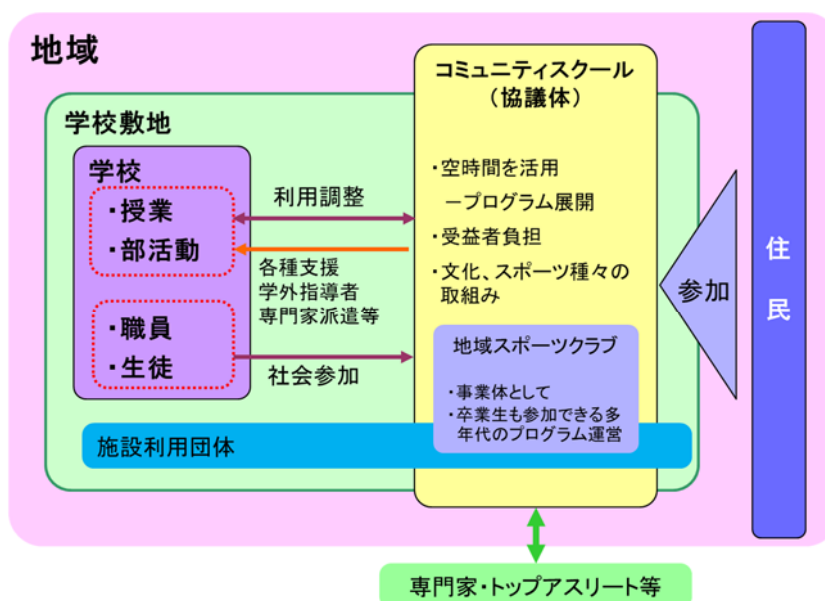
(検討・調整事項) 種目、日時、場所、指導者、教員の参加、費用 等

○専門家派遣

- ・ 委託費がなくなるので、無理のない方法で継続する。
- ・ フィーの財源確保方法の検討を進める。

(2) 将来の姿(ビジョン)の検討

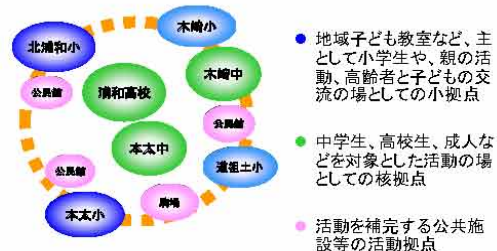
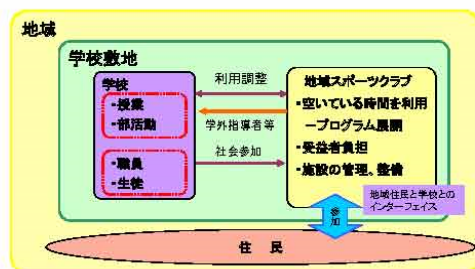
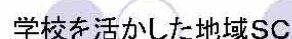
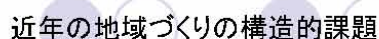
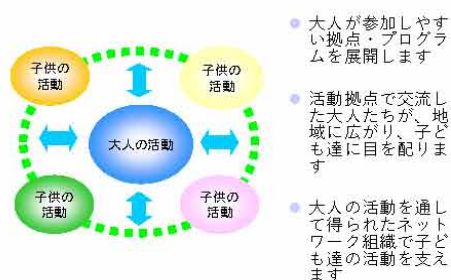
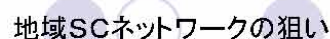
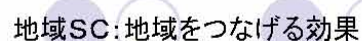
コミュニティスクールとの整合をとりながら、地域における中学生年代のスポーツ環境について検討(結果として地域の全世代の環境を考えることになります)を進め、施設利用料やプログラム参加費などの受益者負担の仕組みや、調整の仕組みなどを検討し、構築していきます。



(コミュニティスクールと地域スポーツクラブと連携した取組み関係図(案))

(参考)

(参考 1) 2005 年 12 月に浦和スポーツクラブが本太中や浦和高校に提案した
「北浦和東部地域 スポーツクラブとまちづくり」(抜粋)



(参考2) 導入実現にむけた方策の検討方法(案) (昨年度報告書から抜粋)

1) 専門家派遣について

①「顧問、生徒の理解化」「わかりやすい指標作成」

- 講習、勉強会を開催し、近年の児童・生徒の体力低下や、生活習慣病や成人病の若年化など、スポーツ傷害の発生状況などの情報を示し、問題を共有する。
- 部活動を1人の顧問や指導者で見る体制を変えていく。複数で取り組むことで負担の軽減や、知識や情報のアップデートが行いやすくなる。
 - 当該顧問が異動すると全て変わってしまうのは生徒も大変。
 - 複数で見るためには、教員だけでは不足。地域と協働の体制を構築すると良いのではないか。
- 指標をつくるために、事業を継続し、データを蓄積する。

②「顧問、専門家、生徒の認識・情報の共有化」「調整作業の軽減」

- 認識の共有は、事前の調整や意見交換を十分に行うことで解消できると考える。
- 4月から赴任した顧問などともいえるのであれば、4月～6月にかけて調整を行うことが良い。
- 取組みを積み重ねていく中で、より良い方法を考え、共有していければよい。ただし、このための協議の場を持つこと自体が、教職員の負担にもなりかねないので、効果的・効率的な調整の進め方を、早期に確立していくこととする。
- この学校の複数の教職員と外部の専門家や指導者との情報共有の場については、ITの活用などにより効率化、省力化を図る。
- 体育館の利用割り当ての関係で、施設が利用できない日を、体づくりに割り当てるなどする。

③派遣のための財源確保

- 公的負担による財源の確保
 - 部活動指導員制度等を活用するが、単価を数倍にする。生徒の数にあわせて複数の学校を担当するように割り振ることでトータルの収入を確保
 - ✧ 全ての部活動に外部指導員を派遣する予算の確保は難しい状況の中、複数の種目の体づくりをサポートできる専門家の派遣に予算を集中させることが部活間の不公平もなく(外部指導員制度は予算枠の早い者勝ち)、広く将来の健康づくりにも効果が安定して期待できる。
 - 保健教諭、栄養教諭のように、生徒の健康維持に必要な職として位置付け、給与を支給する。
 - 介護予防指導などの事業との組み合わせによる仕事量＝収入の安定確保
- 地域スポーツクラブによる雇用の確保
 - 地域スポーツクラブへの委託事業として所属先を確保(個人事業者として地域の調整にあたることは負担が大きい。地域内の調整ごとはクラブが行い、そのスタッフとして現場で活躍する環境を確立する)
 - クラブのプログラムとして、日中は、介護予防や成人を対象としたプログラムを担当し、夕方は部活動の指導にあたることで全体の収入を確保。

2) チャレンジクラブについて

①既存部活動との整合、趣旨の明確化

- 学校だけではなく、近隣のスポーツ少年団の指導者や、地域スポーツクラブなどが参加して協議し、実態を見据えながら、地域の中での子どもの育て方、スポーツ環境のあり方を検討し、変化の段階にあわせてチャレンジクラブの位置づけを定めていく。
- 教職員の負担軽減と、子どものスポーツ環境の充実の両立を見据える。
- 場合によっては、軽スポーツ部のようなジャンルを確立し、レクリエーションとして生涯スポーツを楽しむ部の創設も検討

②生徒の生活時間との整合

- 活動時間などは、試行事業で得られる保護者や生徒からの意見も踏まえて、方針を定めていくものとする。
- 栄養摂取については補植の活用などを含めて適切な方法を、クラブの実施時間帯にあわせて助言できるようにする。(新たな費用負担については慎重に配慮する)
- 現在の平日4回、週末1回の部活動を、活動時間を確保できるチャレンジクラブをいれることで、平日2～3回、週末1回(計週3～4回)の活動に変更していくことも将来の姿として検討していく。以上のような利点が期待できる。
 - 回数を減らすことで、練習過多が防止できる
 - 施設利用の重複が減り、練習環境が改善できる
 - 塾や習い事、家庭で過ごす時間などとの両立がしやすくなる

③複数による指導体制の構築

- 地域のスポーツ関係者(少年団や地域スポーツクラブ、学校利用団体、部活顧問)が協力・連携し、支援できる体制構築。
- 部活動OB・OGの高校生や大学生や、定年退職をされた元教員の発掘と活用
- 学校施設利用団体との連携

④施設の確保

- 公共体育館の利用：一般利用者への十分な配慮が必要である。現在は補修工事中の駒場体育館の利用率はとても高く、安定した確保は難しいが、今後、活動の位置づけを整理していく中では合意形成をしていくのも選択肢としてあると考える
 - 一つの中学校に限定せず、中学生を対象とした教室的な市付けにして夕方の時間帯に継続して開催する（例 17 時～19 時に毎週○曜日はバレーボール教室とするなど取り決めて、近隣の中学生の参加を募る。この場合はチーム練習というよりは個人スキルの向上を目標としたものとなる）
- 施設開放利用団体との連携：学校施設の夜間利用をしている地域のスポーツ団体と連携し、活動場所や時間のシェアをさらに進めることで活動場所を確保する。（例：同種目で半面ずつ利用する。人数や練習内容によっては一般に混じって行うなど。この場合、指導者の連携も必要となる）
- 周辺の高校等の施設の利用：高校や企業の持つスポーツ施設などの未利用時間帯の貸し出しをお願いする。事業の主旨を説明し協力を依頼（例 日通の野球場、浦和高校体育館など）
- 学校への照明設置：周辺家屋の生活環境保全への配慮（騒音や光害）が必要であるが、電気代は利用者負担のコイン式にした照明施設の整備。すでに市内では整備されている小中学校が複数ある。

⑤財源の確保

- スポーツ振興くじ助成の活用：現在、部活動と関連する取組みは対象外であるが、チャレンジクラブの仕組みは、中学生年代の会員確保が課題となっている多くの地域 S C にとっては、大きな意味を持つことを考慮し、toto の助成対象事業とする
- 受益者負担；保護者への丁寧な説明などを行った上で一部の負担をいただく。
- 学校施設利用団体との連携：自分たちの活動を続けて行うこととして、その前に行っているチャレンジクラブにボランティアで指導を行ってもらうことで、謝金を軽減する。
- 地域の企業や篤志家からの協賛・寄付

（参考３）チャレンジクラブと専門家派遣を取り入れた部活動改革の姿（案）

- チャレンジクラブの導入により週の練習時間（量）を確保しつつ、活動日を減少し休息日を設けることで、生徒の体を守ると同時に教職員の負担も減少します。
- チャレンジクラブの時間においても教職員が指導に関わることも可能とします。
- １～２週間に一度はＡＴ等の専門家による体づくりの時間にあてます。
- これにより生徒の意識の向上を図ります。（部活動の無い日に、短時間に家庭等で行えるストレッチや体幹トレーニング等の実施を促すこともできる）

	月	火	水	木	金	土	日	合計時間
現在の活動 (例)	○	○	○	○		○		6
						○		



	月	火	水	木	金	土	日	合計時間
改革案 (１)	◎		○	○		○		6
			○			○		



	月	火	水	木	金	土	日	合計時間
改革案 (２)		◎		○		○	試合等	6 + α
		○		○		○		

○は通常練習

◎はＡＴ等による体づくりの指導（２週間に１度程度の巡回指導）



- 生徒のスポーツによる怪我や痛みの発生が防止できる
- 塾や習い事などとの調整が容易になる
- 教職員の拘束時間が減る
- 施設利用のすみ分けが行いやすくなる
- 練習プログラムが充実する

(参考4) 保護者アンケート自由記述(分類の都合で再掲する意見もあります)

■主に教員の負担軽減や教員への期待に関する意見

- ・ 先生方の負担軽減のため、外部に委託することは良いことだと思うが、全く先生が関わらず、教育的な観点が抜け落ち、大会等での結果や勝敗にだけにこだわるようになってしまうと、部活しての意味がなくなってしまうと思う。
- ・ 学校の教員が必ずしも部活を指導しなくても良いとは思う。
- ・ 経験したことない部活の顧問にあたる先生のメンタル的な負担が気の毒に思います。
- ・ 先生方は頑張りすぎなので、地域の指導員やボランティアを募ってもいいと思います。難しいかもしれませんが、部費を集めて、先生に課外活動費として(残業代のように)支払うこともいいのかと思います。それだけお世話になっていると思います。
- ・ 先生方それぞれの思いや生き方もあるかと思います。部活を教えたくて教員になられた方もいるでしょうし、教員が選べるようになるといいと思います。必ずしも、好きな部活の顧問になるとは限らないでしょうし、部活に力を入れたい先生は平日も休日もお願いできたら助かりますし、平日は部活、休日は休みたい先生は外部コーチを休日だけ頼むなど、臨機応変に先生方も選べると良いです。
- ・ 放課後や週末に行っている、現行の部活動を継続するならば、教員はまったく関わらなくてよい(指導者は外部から招けばよい)。
- ・ 先生が平日の部活が負担だと思われるなら平日も地域に託されるのも賛成です。
- ・ 辛い気持ちでのご指導は精神的にも負担がかかるでしょうし、平日も休日も地域に任せられるかどうかは、先生のやりやすい方法がよろしいのかと思います。”
- ・ 教員が指導するにしても教員以外が指導するにしても時間や日数の上限は設けるべき。
- ・ 先生方の負担を減らすため、地域との連携は良いと思います。どのような関わりになるのか詳しく知りたいです。
- ・ 顧問の先生の負担を考えると心苦しいですが、地域の方のご協力を得ながらも、とにかく子どもたちに部活動の時間を復活させてください！
- ・ 教員の負担を減らすために外部指導者にお願いする点は賛成です。
- ・ 可能な限り、教員の負担を減らしつつ、外部指導者と連携していただけると助かります。
- ・ 教員の負担軽減には賛成です。
- ・ 外部指導者の導入で、先生の負担なく土日に指導を受けられる事は子供にも良い事だと思いますが、休みがなくなり部活以外の事をする余裕がなくなるのでは、と不安もあります。
- ・ 教員の方々の負担はかなりあると思っています。土日のどちらかで専門家に任せたりするのは賛成です。ただ、教員が全く関与しないのもまた不安も残ります。子供達の相談先はあくまでも教員であるのが理想です。
- ・ 以前より、先生方の負担が高いことは認識されてはいたものの、放置され続けてきたと思います。質の高い地域資源を活用し、早急に改善して、先生方の負担軽減を実現すべき考えます。
- ・ 外部の指導者に指導していただくことは、先生の負担軽減ができ、技術面や安全面でも安心できると思います。しかし部活動内でトラブルが起きた場合、先生の方が生徒の学校生活の様子もふまえて対応していただけるのではないかと思います。
- ・ 教員の負担も大変とは思いますが、部活動は学校活動の延長であり、初めてふれる小さな社会のような物であって、学ぶことがたくさんあると思います。

- ・ 教員の負担軽減だけを考えると部活動はなくなりますよね。
- ・ 先生方々がご負担なのであれば、地域の指導者にお願いしてもいいので、部活動がなくなることを強く願います。
- ・ 教員の負担軽減をしていくことには賛成！しかし、そのことによって地域に任せ、新たな金銭的負担、時間的負担の多さ、別指導者や団体との伝達・指導方法の相違などが出てきてしまうことがとても心配。”
- ・ 専門の指導者がいれば技術の向上に繋がるが、費用と安全面など課題がある。だが、教員の負担軽減にはいい事だと考えている。
- ・ 外部コーチも入れながら、先生方の負担を軽減するのは良いと思いますが、全てとなると不安です。やはり、子供達の事をよくわかっている先生だから安心できるという面は大きいです。

■部活動の意義についての意見

- ・ 全く先生が関わらず、教育的な観点が抜け落ち、大会等での結果や勝敗にだけにこだわるようになってしまうと、部活しての意味がなくなると思う。
- ・ 多くの子ども達のさまざまな能力を伸ばす機会として、部活動は意味があることだと思う。外部委託することで、親の経済的負担が増えて、経済的に苦しい家庭の子ども達が部活に入れなくなるのは、本末転倒だと思う。”
- ・ 中学時代に授業以外で考えの違う友人と一緒に活動をして過ごす事のできる部活は大切だと思う。
- ・ 地域によって、スポーツ格差が激しいのが地域に部活を任せる上で難点。
- ・ 子供達がこれまでと変わらない部活の種類を地域格差なく活動できるのであれば大賛成。差が激しくなり、学校での部活も難しいなら出来ないのなら、いっそ一斉に部活廃止が平等かな。
- ・ 学校生活の延長に部活動があると考えています。
- ・ 中学生にとって部活動はなくてはならない大切なものです。緊急事態宣言下であっても一律で中止にするのではなく、感染対策を徹底しながら続けるべきだと強く思います。
- ・ 部活動がないことで、どれ程子どもがストレスを感じているか理解して欲しい。精神的に崩れてしまうのではと心配です。
- ・ 部活が楽しくて生き生きしていた頃に戻って欲しい。体育の授業はやるのに部活動が停止とは納得できません。
- ・ 地域の方のご協力を得ながらも、とにかく子どもたちに部活動の時間を復活させてください！
- ・ 1日も早い部活動再開を親子共々、強く、強く願います！”
- ・ 部活動は学校活動の延長であり、初めてふれる小さな社会のような物であって、学ぶことがたくさんあると思います。
- ・ 部活動が無くなって、地域でのクラブ活動になると、下手な子は入りにくかったり、そのスポーツのみ学ぶだけの所になってしまいそうで、心配です。
- ・ 意見だけ言って、解決策は思い当たらず申し訳ありませんが、大人目線ではなく子供がどうしたら楽しく時に厳しく充実した学校生活を送れるかを一番に考えていただきたいです。最終的にしわ寄せは子供に来るような気がするのです。”
- ・ 部活動は体や精神力を鍛えて、社会性を学ぶ良い活動だと思っております。この時期に学ばないと社会に出るまでに、いつ学べるのかと不安にもなります。

- ・ 地域の指導者にお願いしてもいいので、部活動がなくならないことを強く願います。
- ・ 部活動の技術力向上の為に専門家から指導を受ける事は良いと思いますが、全てを任せる事は不安です。学校活動の一環として行い学校の先生目の前で行いながら専門家の指導をプラスする形で教員の負担軽減になればと思います。
- ・ 多感な時期の、子供の部活動はいろんな意味でとても大切なので、教育の一環として、行政管理のもと実施して欲しいと思います。
- ・ 部活動がない今は、子供もストレスがたまっているのがよくわかり困っています。何か工夫して、活動して欲しいものです。”
- ・ 多世代とのコミュニケーションを通じて得るであろう経験をも子ども達に味あわせてあげたいな、と思いました。
- ・ コロナ禍で、部活がなくなり放課後は行く場もなくただなんとなく過ぎていく毎日があったいなくて仕方ありません。クタクタになるまで仲間と汗を流し、苦楽を共にすることの大切さを中学生の今だから学んでほしいと切に願います。
- ・ 私自身、部活を通して目上の人との接し方礼儀など社会で必要なスキルをたくさん学びました。それだけでなく、努力する事や協力すること、顧問の先生との信頼感や、他の部活の生徒との交流など、運動のスキルを上げるためだけの部活ではないと思います。特定の運動でスキルをあげたい、頂点を目指したいのなら部活以外で活動すればいいと思います。中学校は義務教育なので、部活も含め学校生活の一貫として先生方に指導していただきたいと思います。
- ・ 部活動はあくまで学校の課外活動の一つとしてであれば、大きく家庭の経済に影響するほどのものは必要ではないと思います。
- ・ 学校でその部活があったから、経験する事ができた。家庭では経験することも想像できないことに出会いをつくるきっかけになり得るので、部活動は継続すべきだと思います。
- ・ 学校や生徒、保護者、行政や委託業者との明確なルールが必要でしょう。あくまで部活動の範囲を逸脱しない事を、徹底するべきだと思います。”

■部活動の制度や地域との連携に関する意見

- ・ 外部委託することで、親の経済的負担が増えて、経済的に苦しい家庭の子ども達が部活に入れなくなるのは、本末転倒だと思う。”
- ・ 地域によって、スポーツ格差が激しいのが地域に部活を任せる上で難点。
- ・ 子供達がこれまでと変わらない部活の種類を地域格差なく活動できるのであれば大成。差が激しくなり、学校での部活も難しいなら出来ないのなら、いっそ一斉に部活廃止が平等かな。
- ・ 小学生は習い事で様々なスポーツを行なっているのでその指導者に協力してもらったかどうかと思います。
- ・ 先生方は頑張りすぎなので、地域の指導員やボランティアを募ってもいいと思います。
- ・ 平日は部活、休日は休みたい先生は外部コーチを休日だけ頼むなど、臨機応変に先生方も選べると良いです。色々な指導者に見て頂き、コミュニケーションをとることも中学生にとっては成長に必要なのかもしれません。
- ・ 放課後や週末に行っている、現行の部活動を継続するならば、教員はまったく関わらなくてよい（指導者は外部から招けばよい）。その代わり、「部活動は全員参加すること」との校則がある学校は、校則変更して、部活動への参加は完全任意とすべき。一方で、「部活動には一定の教育効果が認められ、あるていど強制してでも全員参加」とするならば、通常の授業時間中に部活動を行えばよい。6時間目以降は、教員は、次の

授業の準備や、生徒指導に集中すべき。

- ・ 教員が指導するにしても教員以外が指導するにしても時間や日数の上限は設けるべき。
- ・ 受益者負担は反対です。地域指導者が携わることになった場合、発生する経費を行政に請求するその事務手続きまで地域指導者が行うのは厳しいと思います。行政は科目により出る、出ないが厳しく、それらの把握や、請求申請の資料作成が難しく面倒なことが多いと思うので。その辺りの負担削減も考慮した上で形作りをして頂きたいです。”
- ・ 希望する教員は、休日でも部活動の指導ができるような仕組みにしたら良いと思います。
- ・ 休日の部活動は、大会を除き、基本的に止めるべきだと思います。
- ・ 週末の部活動を外部団体の指導者に任せる事自体には賛成です。ただ、その際に部活動として独立させるのか、その団体の活動に部員を組み込んで参加させるのかでかなり違いが出ると思います。指導者の負担しかり、子どもや保護者達の負担しかり、ですがせっかく外部団体に指導を任せるのであれば後者を希望します。
- ・ 休日の部活動を外部に、というのが今一つ理解できませんでした。公民館等で活動している一般向けの団体に参加するのか？とも読めてしまいます。一般向けがスキルの中学生より上とは限りません。部活が地域活動へ移行するのは大筋では賛成ですが、それにより市民生活がどう変わるのかがわかりませんでした。保護者の費用負担しか質問に出てきませんでしたが、地域に移行となれば、保護者以外にも影響があるはずだからです。
- ・ 親の負担が大きく、常に学校教員との連携が必要である。教育の一環として学校内で全て担ってもらいたい。
- ・ 部活はあったらあったで楽しいし体力を付ける等それなりの意義はあると思うが、放課後や休日はもっと様々な過ごし方が認められるべきだと思う。(生徒も先生方も)
- ・ 中学校の部活が変われば家庭の余暇の過ごし方も変わるかもしれない。大会等思い切っただけなくでもいいものも多いのではないかな。大会がないから部活が作れない(ダンス部など)ということも本末転倒だと思う。
- ・ 平日は今まで通り週 2 日の休み程度にし、休日も土日のいずれかの半日のみの活動とし、部活の無い日に希望者のみ少しずつ地域の活動として参加するような形で移行するのが良いように思います。
- ・ 学校教育の一環として教員の先生にも参画はしていただきたいです。技術面に関しては、経験の多い方が指導することには賛成です。できる限り教育者、指導者の体制が望ましいと考えます。
- ・ 全てを地域に任せる事は不安です。学校活動の一環として行い学校の先生が目がある中で専門家の指導をプラスする形で教員の負担軽減になればと思います。
- ・ 多感な時期の、子供の部活動はいろんな意味でとても大切なので、教育の一環として、行政管理のもと実施して欲しいと思います。
- ・ 可能な限り、教員の負担を減らしつつ、外部指導者と連携していただけると助かります。”
- ・ 外部指導者の導入で、先生の負担なく土日に指導を受けられる事は子供にも良い事だと思いますが、休みがなくなり部活以外の事をする余裕がなくなるのでは、と不安もあります。”
- ・ 教員が全く関与しないのもまた不安も残ります。子供達の相談先はあくまでも教員であるのが理想です。”
- ・ 質の高い地域資源を活用し、早急に改善して、先生方の負担軽減を実現すべき考えます。

- ・ 外部指導者と学校との細やかな連携を期待しています。”
- ・ 顧問の先生が、そのスポーツの専門でないのならば、地域の経験者の方に無理のない範囲で、ご指導いただけたら、技術の向上に繋がると思います。友達同士のトラブルの事もあるので、顧問の先生も平日は、様子をみていただけると安心だと思います。
- ・ 地域の方に指導を任せることには賛成ですが、先生方が全く関わらないというのは不安です。直接の指導はなくとも、定期的に部活の様子を見たり、内容全般を把握したりすることを条件として欲しい。理由としては、部活内でトラブルが起きた場合、迅速に対応できるようにして欲しい。部活でのトラブルは学校生活にも関わってくるだろうから。
- ・ 教員の先生とのコミュニケーションがきちんと取れていれば問題ないのではないかと思います。

■指導の質に関する意見

- ・ 技術面に関しては、経験の多い方が指導することには賛成です。できる限り教育者、指導者の体制が望ましいと考えます。
- ・ 外部の指導者が学校の教育的意義を理解しているとは限りません。外部の指導者を誰がどう評価するか議論も無く、トラブル時の対応を誰がするのかも分からず、教員の働き方改革目的だけが先行し、結果ありきの短絡的な指導をされても困ります。
- ・ 友達同士のトラブルの事もあるので、顧問の先生も平日は、様子をみていただけると安心だと思います。
- ・ 地域の方に指導をお願いする際は、人柄、技術的にも確かな人選と、事故のないようをお願いしたいのと、親や教員による監視や客観的な視点もなくさないようにする事を希望します。
- ・ 地域指導者が生徒の年齢や成長具合を理解した適切な指導を行って下さり、先生と地域指導者の連携がきちんととれていれば、保護者としては安心です。
- ・ 別指導者や団体との伝達・指導方法の相違などが出てきてしまうことがとても心配。
- ・ 全てとなると不安です。やはり、子供達の事をよくわかっている先生だから安心できるという面は大きいです
- ・ 教育委員会監修の試験に合格した指導者が、教育委員会のもとで部活の指導にあたるようにしてはいかがでしょうか？
- ・ チャレンジクラブに参加したが、指導内容のギャップと、自由奔放過ぎてまとまりがなく目標も見えない練習に、参加する意味が感じられず、本人の希望でやめました。委託先に丸投げでチームが機能しないのであれば、練習する意味がないため賛成出来ません。
- ・ 中高生時代の指導者の「影響」は、かなり大きいので、やるからにはレベルの向上を見込める者を選択しないと、意味がないかと思います。”
- ・ もし外部講師などに委託するとして、体育会系によくある暴力や暴言などは絶対にあってはならないので、その点は徹底して監視して欲しいです。
- ・ 教員自身が過去に経験のないスポーツの顧問を任された時に、全くやる気のない指導をされるなら保護者として腹立たしい限り。それなら、外部より来た知識のある方が指導してくれた方が嬉しい。毎日でなくても、練習メニューを考えてくれたり、個々の能力を上げるアドバイスをしてもらいたい。親は運動をしていて欲しいから、得意な事をさらに楽しく感じられるように伸ばしてもらいたい、と思って運動部に入らせた。技術力向上の為自分で努力する子もいるだろうけど、そうでないうちの子はそういう場(部活動)がなくなると怠けてばかり。以前のように、放課後は部活動をして帰

る日が早く戻ってきて欲しい。

- ・ 地域のスポーツ指導者がどのような方（人物）か によって、指導をお願いしたい 任せたいか等の考えは 変わると思う。
- ・ 地域の指導者がどのような方になるのか、不安です。
- ・ 先生だから安心して預けている部分もあります。先生と地域の方々が密に連絡を取って生徒について見守ってくださるのでしょうか？
- ・ もし専門の方をお願いする場合には、前以て児童への指導要領について勉強をしていただいた方を派遣して欲しい。勝つ事ばかりを意識し過ぎない指導をしていただきたいと思います。（体罰などが起こらない予防になるかと）

■費用負担、財源等に関する意見

- ・ 金銭的負担、時間的負担の多さ、などが出てきてしまうことがとても心配。
- ・ 専門の指導者がいれば技術の向上に繋がるが、費用と安全面など課題がある。
- ・ 外部委託することで、親の経済的負担が増えて、経済的に苦しい家庭の子ども達が部活に入れなくなるのは、本末転倒だと思う。
- ・ “受益者負担は反対です。地域域指導者が携わることになった場合、発生する経費を行政に請求するその事務手続きまで地域指導者が行うのは厳しいと思います。行政は科目により出る、出ないが厳しく、それらの把握や、請求申請の資料作成が難しく面倒なことが多いと思うので。その辺りの負担削減も考慮した上で形作りをして頂きたいです。”

■部活動の時間に関する意見

- ・ 教員が指導するにしても教員以外が指導するにしても時間や日数の上限は設けるべき。
- ・ 平日は今まで通り週 2 日の休み程度にし、休日も土日のいずれかの半日のみの活動とし、部活の無い日に希望者のみ少しずつ地域の活動として参加するような形で移行するのが良いように思います。
- ・ チャレンジクラブで夕方以降の指導をしていただけるのはありがたい反面、真っ暗な中を帰宅させるのは心配。
- ・ 土日はどちらか片方必ずお休みでいいと思います。部活は体力維持や協調性を育むために必要ですが、拘束時間が過剰で、家族との時間、予習復習、部活にはないお稽古ごとが出来ません。

■その他の意見

- ・ 中学で部活に入れず外部でしか活動できない子も居場所としてどこかの部活に籍をおかしてもらいたいと思います。
- ・ 先生に必ず部活指導して欲しいとは思わないです。経験の無い運動部の顧問は先生、生徒両方にとっても利が無いからです。
- ・ 生徒が中学時代に専門の指導を受ける事は良いと考えます。
- ・ 運動部だけではなく、文化芸術部についても議論して欲しいと思います。
- ・ 休日の部活動を外部に、というのが今一つ理解できませんでした。公民館等で活動している一般向けの団体に参加するのか？とも読めてしまいます。一般向けがスキルの中学生より上とは限りません。部活が地域活動へ移行するのは大筋では賛成ですが、それにより市民生活がどう変わるのかがわかりませんでした。保護者の費用負担

しか質問に出てきませんでしたが、地域に移行となれば、保護者以外にも影響があるはずだからです。

- ・ 親の負担が大きく、常に学校教員との連携が必要である。教育の一環として学校内で全て担ってもらいたい。また、部活によって、担当顧問が変わると活動方針が異なったため(外の試合は親が引率する、しないや相手のコーチにお茶を出す、出さない、試合時の荷物は教員が持つ、持たないなど)、手伝う親も含めて、子供も混乱していた。
- ・ 部活動のスケジュールが不透明で、連絡が直前になって、家族の予定を変更するなどがあり困惑した。地域や専門のコーチが指導してくれるのは子供にとっても親にとっても、技術向上や学外の人とのコミュニケーションを養う良い機会だと思う。”
- ・ 中学校の部活が変われば家庭の余暇の過ごし方も変わるかもしれない。大会等思い切っただけなくでもいいものも多いのではない。大会がないから部活が作れない(ダンス部など)というのも本末転倒だと思う。”
- ・ 平日放課後のみ部活動にしたら負担減だと思います。多様性と文科省がうたっている割には、負担は母親ばかりにかかり、今の時代専業主婦ばかりではありません。働いている女性が土日駆り出される事を考慮して下さい。これこそ女性蔑視です。
- ・ 先生方のご指導にいつも感謝しております。本当にありがとうございます。
- ・ 現在、特に理由がなければ部活動に入部するようですが、子どもによってはやりたくないけど仕方なく活動しているような場合、学校や行政、教員の方々が熱心に取り組んだところ、親子共に迷惑でしかないのでは…まずは、部活動強制をやめる方が先ではないでしょうか。
- ・ 部活の種類も運動系に偏っているし、外部の人を顧問にすることができれば、先生の負担はなくなり、子どもたちもやりたい活動に力を注ぐことができるのではないのでしょうか。
- ・ うちは、先生の負担軽減のため部活動の時間が減っているという話を聞いて、部活動には入部せずにクラブチームに入ることを選択しました。勉強とクラブチームの活動の両立は、非常に難しいです。
- ・ 親にとっても休日の試合の帯同や相手チームの差し入れなど、部活毎に細かく決められている事があり負担に感じます。親の負担の軽減もお願いしたいです。”
- ・ 保護者と教員のコミュニケーションが円滑にとれる部活動なら、クレームになりにくいですが、連携がとれない部は大変だと思う。教員が何を考えているか、保護者がどう思っているかお互いを知らないと子どものためにもならない。指導者には技術力より、対話力を求めたい。
- ・ 本太中には子供が入りたい部活はなく、その中から選択ができなかった。新しく部活を作れる選択もあってほしい。高校は入りたい部活があるところを選択したい。先生が時間外に指導する必要はなく、文科省が、専門家を雇うべきだと思う。先生の負担も減らすべきだと思う。

本事業にご協力いただいた皆様

結果的に 2019 年度、2020 年度の 2 ヶ年とも本事業を受託することができました。

この間、事業の実施に多くの方のご協力がありました。

以下にご紹介をさせていただきます。

教職員の皆さんの負担軽減だけではなく、子ども達のニーズ、社会環境の変化にも対応しながら、より良い地域スポーツ環境づくりに、今後も協力・連携しながら取り組ませえたいと思います。

所属・お名前等	ご協力いただいた内容
さいたま市立本太中学校 学校長、教頭、多くの教職員の方々	専門家派遣やチャレンジクラブの調整、会議の会場提供など事業全般にわたり協力・連携いただきました。
さいたま市 教育委員会 指導 1 課	実行委員会に出席いただき、助言。情報共有をいただきました。
さいたま市 スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ振興課	〃
早稲田大学スポーツ科学研究科 広瀬統一教授、古庄氏、小谷氏、金子氏	スポーツ科学の専門家として A T 派遣や講習会の開催など協力・連携して事業を実施していただきました。
p l u s N 公認スポーツ栄養士 小嶋氏	スポーツ栄養士の視点から生徒への相談や情報提供をいただきました。
特定非営利活動法人 ReMind（リマインド） 理学療法士 河合氏 他	理学療法士の視点から、生徒のリハビリ相談や怪我の要望など情報提供をいただきました。
チャレンジクラブ指導 (2019 年度) 河田氏、成田氏、小田氏、柚口氏、喜多氏 (2020 年度) 喜多氏、仲原氏、成田氏、小田氏、桜井氏 鈴木氏、吉田氏	チャレンジクラブ（サッカー、男女バスケットボール、男女バドミントン、男女バレーボール、女子ソフトテニスなど）の指導にあたってくださいました。
地域スポーツ関係者 北浦和小少年団等 吉川氏、笹川氏 本太小少年団等 兵藤氏、菊池氏 浦和区スポーツ振興会 金子氏	地域関係者会議に出席いただき、一緒に悩み、考えていただきました。
本太中学校施設利用団体の皆様	チャレンジクラブによる夜間の体育館利用にむけて利用時間の調整に対応していただきました。
N P O 法人浦和スポーツクラブ 小川、片倉、梶谷、小野崎 他	事務局として、事業全般の準備、調整、会議の運営等を担いました。

令和２年度・運動部活動改革プラン
＜地域との協働・融合に関する調査・実践研究＞
「部活動へのアスレティックトレーナー等の派遣と
チャレンジクラブ制度の導入の効果と課題の把握」
報告書

令和３年３月
NPO 法人浦和スポーツクラブ
info@urawasc.org
TEL 048-887-7140 FAX 048-677-7598

